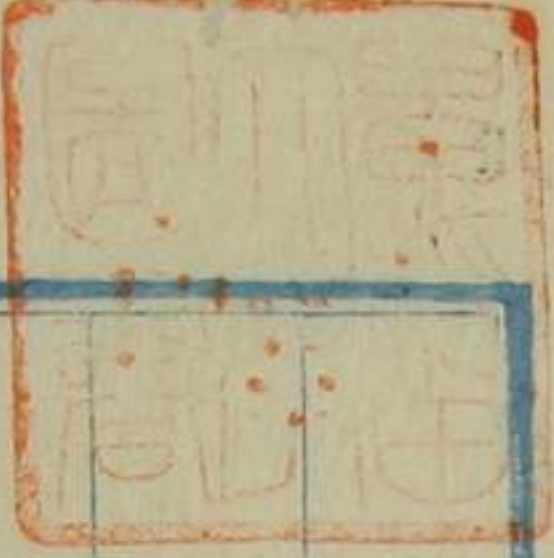


萬國通私法卷下



414
A2734
3



萬國通私法卷下

大藏書

萬國通私法卷下

大正十一年四月
大隈侯爵邸贈

合衆國狀師コペルト、ジョンソン筆授

租稅推助 若山儀一

訂譯

第十編

審判五法

凡ソ法上關聯ハ分テ五類ト為ス故ニ是ヨリ起
ル所ノ争訟ヲ聽ク亦五法アリ曰各人推分之法
曰物件之法曰義務之法曰継嗣之法曰親屬之法
是ナリ下ニ分目論載スヘシ

甲各人推分之法

凡ソ專ラ人ノ身上ニ關ルノ法ハ皆其推分ニ關
ス各人ノ推分ハ其本貫ノ法ニヨリテ定マル本
貫ノ法ハ則人ノ成丁尚弱婚配及保人ノ職等ニ
就キテ起ル所ノ一切ノ論件ヲ決定シ且貧富貴
賤ニ論テク民ノ推理ト義務トヲ限定スルナリ
多クノ法律家者相續テ一切事理ノ抵牾ヲ決
定スルカ為ニ幾何學上ノ原理ヲ看出セニ
テ勉メタリ此意見ニヨリテ書ヲ著ス者法ヲ
分テ三項ト為ス曰ク人的法曰ク物的法曰ク

雜綜法是

凡ソ法專ラ人身ニ關スルトキハ之ヲ人的法
ト云ヒ專ラ實産ニ關スルトキハ之ヲ物的法
ト云ヒ專ラ約束ニ關スルトキハ之ヲ雜綜法
ト云フ
人的法ハ其立法官ノ居ル所ノ境中ニ本貫ヲ
有スル一切ノ人ニ適用スヘク縱令外國ノ訟
庭ニ於テ其審司ノ問答ヲ受ルト雖モ之ヲ變
スルト能ハス故ニ今人日本ニ本貫ヲ有スレ
トキハ縱令英國ノ審廳ニ於テ其人ノ身上案

件ヲ問治スルモ日本ノ國法ニヨリテ其人ノ
推分ヲ限定セサルヲ得ストス

物的法ハ立法官ノ居ル所ノ境中ニ在ル一切
不可動物ノ上ニ用フヘシ故ニ其物ニ就キテ
ノ争訟國內ニ於テ起ルト外國ニ於テスルト
ニ論ナク皆之ヲ應用スヘシトス

雜綜法ハ立法官ノ居ル所ノ境中ニ於テ為セ
ル一切義務ノ上ニ用フヘシ縱令外國ノ審廳
ニ於テ之ニ就キテノ事件ヲ裁判スルモ此法
ヲ換ルヲ得ス故ニ假令ハ佛蘭西ニ於テ結フ

處ノ約束ハ其事ニ就キテノ案件ヲ米利堅審
廳ニ控白スルモ尚佛律ニヨリテ之ヲ管理ス
ヘキカ如シトス

右三項ノ規法書ヲ着ス者或ハ之ヲ已ニ各國ノ
通用スル所ト為ト雖モ誤ナリ

蓋シ各人本貫ノ法ハ通シテ其法上關聯ヲ限定
スト雖モ詳ニ之ヲ考フレハ尚此中ニ括綜スヘ
カラサル者アリ何トナレハ人ノ法上關聯ハ大
抵一個人上ニノ三關スルニ非ス必ス亦別個ノ
人ニ關ス凡ク一切ノ義務ニ入ル常ニ此ニ二夥

人無ニハアテス或ハ多人之ニ關聯スルヲアル
ヘシ尚且之ニ関スルノ人各國ヲ同クセサル
アルヘク又其約束ヲ結フニ至ルノ事實全ク其
夥人ノ本貫地外ニ於テ起ルヲアルヘシ是ヲ以
テ各廳ノ審司訟ヲ聽クニ方ツテハ素ヨリ其國
法ヲ以テ審斷スヘシト雖モ唯其法ヲ之カ為ニ
設クル所ノ人ト事トニ用フヘキノニ然ルニ若
シ某一國ノ法ヲ以テ五洲萬國ニ擴充シ施テ他
國ニ於テ結フ所ノ法上關聯ニ及ホサント謂フ
トキハ猶百見西垂玉ノ自ラ稱シテ各國王ノ王

ト為スカ如ク其不遜自ラ知ラサルノ甚シト云
フヘシ故ニ余ヲ以テ之ヲ觀ルトキハ凡ソ審司
タル者一切法上關聯ノ按件ヲ決裁スルニ其内
外ヲ問ハス其關聯ヲ起セル所ノ地法ヲ以テ人
ルヲ正當ト為ス但其國法之ヲ問治スルヲ禁ス
ルカ或ハ其地法曩ノ境外不通法ノ如ク壓制束
縛ノ意見ニ基クカ或其國政教ノ趣旨ニ相乖戾
スルカ如キハ宜シク斟酌スヘキノニ
又各人本貫ノ地法一切其權分ニ就キテノ論件
ヲ管理スルヲ世間普通ノ規則ト為スノ論ニ至

リテハ或ハ之ヲ理ニ當レリトスル者アリ或ハ
之ヲ理ニ當ラストスル者アリ書ヲ著ス者異説
紛々之カ為ニ惑ヲ取ル者少カラス而シテ前説ヲ
以テ最穩當ノモノト為ス近頃米國國會ニ於テ
モ衆説漸ク此ニ趣向セリ然レトモ米英ノ審廳
ニ於テハ尚未タ之ヲ採用スルニ至ラス
書ヲ著ス者ノ中其前説ヲ非スル者ハ曰ク人ニ
普通能力普通不能力特異能力特異不能力アリ
而シテ其普通ノ者ハ則集メ其人ノ推分ヲ成スヲ
以テ共ニ本貫ノ地法之ヲ管理スヘシ特異ノ者

ハ其人ノ推分ヲ成サシムルヲ以テ共ニ本貫ノ地
法之ヲ管理スヘカラス但起約之地法之ヲ管理
スヘシ抑人ヲ呼テ成丁ト為スハ何ソヤ其人智
慮體格已ニ備リ自ラ立テ事ヲ成スニ十全ノ能
力ヲ有スレハナリ故ニ之ヲ普通能力ヲ有スト
云フ之ニ反シテ尚弱ノ者ハ其齡尚弱ク智慮體
格未タ特リ事ヲ為スニ適セス成丁ト等ク其推
分ヲ受ルノ能力ヲ有スレトモ未タ特リ事ヲ成ス
ノ能力ヲ有セス故ニ之ヲ特異不能力ヲ有スト
云フ而シテ其事ヲ特行スル能ハサルハ唯其齡ノ

満タサルニ係ルノ三齡已ニ満レハ特行ノ権ヲ
有ス故ニ其能力ハ唯是其齡ニ因テ盡ルナリ全
無ニハ非ス依テ亦之ヲ特異能力ヲ有スト云フ
彼人ニ嫁スルノ女其夫ニ偕フノ日ハ亦特リ事
ヲ作スヲ得ス夫死スルノ後ハ自ラ事ヲ處スル
ヲ得故ニ亦能不能ノ力兩ラ之ヲ有スト云フ狂
者奴隸ノ如キニ至テハ終身特立事ヲ為スヲ得
ス故ニ普通不能力ヲ有ス而メ成丁ノ普通能力
狂者奴隸ノ普通不能力以テ皆其権分タリ本貫ノ
法之ヲ管理スヘシ尚弱者嫁婦ノ特異能不能力

ハ未メ之ヲ推分ト稱スヘカラス唯起約之地法
其約束ノ當否ヲ定ムルヲ以テ能ク入之ヲ管理
スヘシトイフナリト

起約之地法原語レキス、ロシ、コンタラ、チコス
ハ羅旬語ニテ人ノ初メニ約束ヲ結フ地法
ヲ云フ而メ之ニヨリテ管理ストハ例スルニ
日本ニ於テ其約束ヲ為ストキハ日本ハ即起
約ノ地ナルヲ以テ其約束ニ就キテノ事ハ皆
日本國法ニヨリテ管理スヘキカ如シ但他國
ニ於テ其約ヲ遂了スヘキカ如キハ此例ニア

右説ヲ主張スル者又曰ク凡ソ古ノ如キ普通特
 異ノ能不能カヲ概シテ本貫ノ法ヲ以テ管理ス
 ヘシト為ストキハ大ニ簡易ニシテ煩冗ヲ省ス
 ルニ似タリト雖モ但其中特異能不能カヲ本貫
 ノ法ヲ引テ審斷スルカ如キハ路ヲ開キテ詭詐
 ヲ入ルナリ今試ニ其例ヲ挙ニニ凡ソ普魯斯
 ノ法人ノ齡廿四歳ニ至ルマテ尚弱者ト為シ英
 佛米ニ於テハ廿一歳ヲ成丁ト為ス然ルニ普ノ
 尚弱者ノ負フ所ノ義務ヲ其本貫ノ法ニヨリテ

審斷スルキハ英國ニ在ル普人其齡已ニ廿一歳
 ニ満ル者未タ本貫ノ法ニ於テハ其義務ニ鞅掌
 スルヲ許サレサルヲ以テ之カ為ニ日後訟庭ニ
 控白セラルモ其審司之ヲ問治スヘカラサル
 ヲ計リ人ト約束ヲ為シテ後故ニ其約ニ非ル者
 アルヘシ而シテ英國ニ於テ之カ為ニ法ヲ設ケ其
 國人ヲ強テ容貌已ニ成丁ノ如キ者ニ違フテ之
 ト約束ヲ為ス毎ニ先豫メ其人本貫ノ法ヲ知ラ
 サルヘカラスト為スハ是亦行フヘカラサルノ
 事ナリ故ニ特異能不能カヲ本貫ノ法ヲ引テ審

斷スルハ却テ煩冗ニシテ且詭詐ヲ教ルノミト
而ノ此説ヲ非スル者ハ曰ク右例ノ如キハ日常
實際ニ於テ起ル所ノ事ニ非ス唯臆想ニ出ルノ
ニ何トナレハ右ノ如キ年庚ニシテ國ヲ去リ他
國ニ之ク者世ニ幾何カアル且其年庚ニシテ故
ニ右ノ如キ詐術ヲ行フカ為ニ他國ニ羈束スル
者ハ其地位動靜必ス信ヲ人ニ取ルテ能ハサル
等類ノ人ナルヘシ然ルトキハ則是等ノ外人ト
鞅掌スルノ人ハ常ニ其人ヲ猜疑スルヲ以テ確
實ノ信證ナクニハ共ニ事ヲ典ニスヘカラサル

ヘシ然ルヲ此ノ如キ臆造ノ例ヲ引テ此簡明ノ
良法ヲ批毀セントスルハ甚公平ノ論ニ非スト
又尚大ニカテ極テ前説ヲ論難スル者アリ曰ク
今英國ハ人尚弱ノ普人ニ錢ヲ貸サニニ其債ヲ
促スカ為ニ之ヲ訟庭ニ控白ニ能ク其區更ヲ得
ル者アルカ將普ノ審廳亦能ク債主ニ被告者ノ
財産ヲ賣リ其欠ヲ充ルヲ許サニカ況テ其欠者
財産ヲ佛國ニ有スルアルニ於テモ佛廳ノ審司
彼所謂起約之法ヲ引テ審斷セニカ為ニ其人本
貫ノ法ヲ破ルテ能ハサルヘキヲヤ然リト雖モ

彼尚弱者若シ幸ニ其財産ヲ英國ノ中ニ有セハ
英ノ審廳夫或ハ之ヲ抄收區處スルトアルヘシ
然ルニ縱令其人財産ヲ有スルモ唯其故ノミニ
シテ年齡未タ本貫ノ法ニ於テ成丁タルニ足ラ
サル者誰カ之ヲ信シテ為ニ錢ヲ貸者アラシヤ
是ヲ以テ之ヲ觀レハ人ノ特異能不能力ヲ管理
スルニ本貫ノ法ヲ措テ起約之地法ヲ用フルト
云フモノハ甚タ謂レナシト
右條所論ノ事ニ就キテハ普魯西設法ノ方最其
當ヲ得タリ他國ノ表則ト為スニ足ル若シ各國

ノ政家其偏見ヲ捨テ以テ之ニ依遵セハ希クハ
一切ノ重難ヲ輕解スルヲ得ヘシ其條例ニ曰ク
各人ノ身分地位即其能力ハ其人本國ノ條例ニ
ヨリテ之ヲ定斷スヘシト

蓋シ此條例ハ其住址ノ内外ヲ問ハス一切音國
治下ノ人民ニ浴用スル所ナリ又其外人ニ關ス
ル條ニ曰ク凡ソ此國ニ住シ或ハ其業ヲ營ム所
ノ外國人民モ亦必ス前條ノ規律ニ適遵シテ處
斷スヘシト
又普人外民ノ其本貫ノ法ニ於テ不能力ノ等類

ニ属スル者タルヲ知ラスレテ之ヲ約束ヲ結フ
ヨリ期スヘカラサルノ難件ヲ生セニテヲ慮リ
豫メ尤ノ文ヲ附加セリ曰ク凡ソ外國民ノ能力
ハ其結フ所ノ約束ヲ存有スルカ為ニ最益アル
所ノ法ニ循ヒ之ヲ處斷ニヘレ但論訟スル所ノ
事常ニ普魯斯國中ニ於テスルニ在ラスニハア
ラスト

右ノ條例ニ依レハ其齡廿一歳ニ滿ルノ佛人普
ニ在テ人ト約束ヲ結ハニニ普法此約束ヲ認テ
法ニ叶フトレ訟起ルトキハ審廳之ヲ區處スル

コ許スヘシトス何トナレハ佛法ニ於テハ此年
庚ヨリ成丁ト為スヲ以テ普法ノ廿四歳ヲ成丁
ト為スニ比スレハ約束ヲ存有スルカ為ニ益ア
レハナリ然ルニ若シ羅馬律ニ依リテ廿六歳ヲ
成丁ト定ムル所ノ國民普人ト約束ヲ結フニ方
ツテハ普ノ廿四歳ヲ成丁ト為スノ法便利ナル
カ故ニ之ヲ用フヘシトス而シテ右ノ約束若シ普
國ノ中ニ於テセシニ非レハ普ノ審廳此條例ニ
ヨリテ處斷スルヲナシトス何トナレハ其約束
ヲ為セル外民本貫ノ法之ヲ勒行スルヲ許サハ

ルヘケレハナリ之ヲ要スルニ各人其本貫ノ法
ニ於テ之ニ普通能力ヲ許スモノハ其人五洲何
レノ國ニ行クモ各般ノ法上關聯ニ入ルヲ得其
本分普通不能力ニ屬スル者ハ 即奴隸
在人等 行クトシ
テ之ニ入ルヲ禁セラレタル又本貫ノ法ニ
於テ特異能不能力ニ屬入セラル、ノ人ハ其起
約之地法或ハ其約束ニ入ルヲ許シ或ハ之ヲ許
サス或ハ之ヲ禁スルナリ
然ルニ何レノ國ト雖モ其年庚己ニ成丁タルノ
人ヲ其法ニヨリテ尚特異不能力ノ者ト為スト

ハ其外國ニ出テ事ヲ幹スルニ方ツテ動セス
レハ人ノ信任ヲ失ハシムルノ弊アリ普魯斯ノ
政府曾テ此事ニ遭遇ス即普法ニ於テハ凡ソ某
商會ニ入社スル者力或ハ無稅無役ノ地ヲ有ス
ルカ 地主其衣食ノ料ニ給スルカ為ニ有ル所
ノ地ニシテ其國王ノ為ニ封シ典ヘラレタ
ル地ト 或ハ其住址地方ノ審司ヨリ其地ヨリ出
異ナリ
ルノ利ヲ取ルヲ許サレタル者ニ非レハ銀單 ビ
ル
オフ、エキ ヲ 引用シ之ニ簽名シ之ヲ收領スルヲ
スチエンジ
許サレサリシ是ニ於テカ外國ノ民普人ト事ニ
典カルトキハ先其普人果シテ古ノ特許ヲ有ス

ルノ等屬ニ入ル者タルヤ否ヤヲ探窮セサルヲ
得ス然ラサレハ後日ノ折損ニ虞アリ是ヨリ其
勢終ニ普民ヲシテ信任ヲ外國ニ失ハシムルニ
至レリ因テ此弊ヲ除カニテ慮リ普政府已ム
ヲ得スシテ又更ニ尤ノ法ヲ設立セル

其法ニ曰ク凡ソ普國ノ臣民互ニ貿易ヲ為スニ
方ツテ其銀單ヲ用フルノ能ハカハ必專ニ普
國ノ條例ニ依テ之ヲ限定スヘシト雖モ若シ普
人外國ニ在リ外人ト商事ニ興リ銀單ヲ用フル
方ツテハ起約之地法其能ハカヲ管理スヘ

ニト蓋シ詳ニ此條例ノ意ヲ辨解スレハ凡ソ普
人互ニ銀單ヲ使用スルニ方ツテハ其本國外國
ニ於テスルヲ問ハス皆普法ヲ以テ之ヲ管理ス
ヘシ普人外國ノ民ト銀單ヲ使用スルニ方テハ
若シ外國ノ法普法ニ比スレハ其約束ノ為ニ便
利ナレハ之ヲ用フヘク若シ普法尚便利ナレハ
普法ヲ用フヘキヲ云フナリ

嗟呼夫普國ノ法若シ其臣民某ノ等屬ノ為ニ前
條ノ如キ特異不能カヲ設立セスニハ更ニ後ノ
條例ヲ發スルヲ要セサルヘキヲ

第十一編

乙物件之法

夫田宅ハ不可動ノ物一處ニ止リ永世移スヘカ
ラス故ニ之ヲ實產ト云フ凡ソ人田宅ヲ有スル
ノ推ヲ得ント欲スレハ必ス先其在ル處ニ行キ
其地法ニ從ハサルヲ得ス其在ル處ノ地去之ヲ
名ケテ物件所在之法ト謂フ是猶人ノ身上事件
ニ就キ其本貫ノ地法ニ從フヘキカ如ク同一理
ナリ

蓋シ本貫ノ法タル唯人ノ身上事件ニ用フヘク
實產ノ上ニ用フヘカラス若シ之ヲ用フレハ紛
亂必ス隨起ル何トナレハ一項ノ田土ニシテ或
ハ數人其住址ヲ異ニセル者之ヲ有スル事往々
之アリ若シ争訟起ルニ方ツテ各其本貫ノ法ヲ
主張セハ終ニ適從スル所ナカルヘシ故ニ唯物
件所在之法其争紛ヲ刀斷スヘシト云フナリ
近今ノ法漸ク此物件所在之法ヲ以テ可動物上
ニ應用セントスルニ帰向ス即ハウエイリア律ノ
如キ浮財實產ノ訟ヲ斷スルニ同一ノ規律ヲ以
テス又佛蘭西民法ノ如キハ一切實產ニ就キテ

ノ案件ハ物件所在之法ニ歸附シ浮財ノ條件ニ
至テハ黙シテ言ハス蓋シ唯其別ヲ立ルニ黙從
スルニ過キサルノ三普西斯及澳斯大利ノ法ニ
至テハ其別益判然タラス但米英及其統屬ノ地
ニ於テハ其別ヲ立ル最嚴ナリ
蓋シ物件所在之地法ハ營ニ家屋土地ノ三ナラ
ス亦浮財ノ上ニモ應用スルヲ良トス凡ソ物件
ニ就キ争訟ヲ起ス必ス茲ニ原被告ノ二個人無
ニハアラス或ハ尚數夥人アリ之ニ關聯スル一
ナルヘシ而シテ此關聯ノ人各殊異ノ本貫ヲ有ス

一アルヘク又其互ニ争フ所ノ物件各人本貫
ノ外ニ在ル一アルヘシ此時ニ方ツテ誰カ敢テ
孰レノ地法カ之ヲ管理スヘキト言フヲ得ニ應
ニ唯物件所在之地法ニヨリテ此紛争ヲ解クヘ
キノ三又物件甲人ヨリ乙人ノ手ニ移ルノ間其
物ニ就キ争訟起ル一アリ此時ニ方ツテ兩夥ノ
黨此案件ノ主裁ヲ乞フニ其物ノ的着所在ヲ知
ラサルニ於テハ應ニ自ラ出テ何レノ法ニ從フ
ヘキ蓋シ此等ノ事方今ノ如ク陸送ニ瀛車ヲ用
ヒ一時ニ數多殊法ノ地ヲ過了スル時ニ方ツテ

ハ往々有ル所ノ例タリ又物ヲ商船ニ載セテ送
ルカ如キ其船殊異ノ港門ニ泊スルト多シ此等
ノ時ニ方ツテ若シ其物ノ終ニ止ル處ト定ムル
ノ地ヲ以テ物件所在ノ地ト做シ其地法ニ從テ
其案件ヲ決セスニハ將何ノ法ニカ適從セン試
ニ思ヘ初ノ其船ノ開帆セル地方ノ法ニ於テハ買
者若シ其物ノ直ヲ償ハサレハ賣主能ク之ヲ其
水程ノ間ニシテ扣留スルヲ得然ルニ其船初泊
ノ港門ニ於テハ地法賣主ニ買者ノ物件ヲ扣留
スルヲ許サストセハ其賣主ノ推理一處ニ於テ

容認保存セラレ一處ニ於テハ禁停視棄セラ
ルハナリ甚謂レナシトス故ニ其物件ノ終ニ止
マル處ト定ムルノ地ヲ物件所在之地ト做シ其
法ニヨリテ案件ヲ決裁スルヲ最妥當ト為ス尚
且其終止ノ地ト定ムル處ニ於テハ多クハ其物
買者ノ手ニ移リ再ヒ運移スル事ナキヲ以テ雙
方ノ黨其地法ニ從テ審判ヲ乞フノ外他策ナキ
ヲヤ
抑米國ノ法書ヲ著ス者古件ノ如キ例ニ違ヘハ
必ス本貫ノ地法ヲ引用スルハ蓋シ其徹底已ヲ

利スル通商の見解ニ出ルモノニシテ竟ニ上例
 ニ譬諭スル如キ殊異ノ審判ヲ為スヲ免レサル
 モ職トシ之ニ由ルナリ況ニヤ又上例ノ如キニ
 在テハ其物件ノ久ク止マル處ト定ムルノ地ハ
 大抵買者ノ住スル處ナレハ本貫地法ト物件所
 在之地法ト撮合流用スヘキニ於テマ是ヲ以
 テ「¹」¹氏謂ル「アリ夫ノ法書ヲ著ス者右
 例ノ如キ案件ニ於テ概シテ本貫ノ法ヲ應用セ
 ントスル者ハ多クハ續至ノ事實ヲ推窮セサル
 一由ルト宜ナル哉

然ラハ則人ノ物件ヲ獲物件ヲ賣ルノ能力ハ其
 本貫ノ法ニヨリテ之ヲ管理限定スヘカラサル
 カ曰否人ノ能力ハ即其權分ノ一部分タリ若シ
 其本貫ノ法ニヨリテ之ヲ管理限定セシハ何
 ノ法ヲカ是用フルヲ為サン然レトモ其人ノ能
 カ曩ニ謂フ所ノ如ク其本貫ノ地ニ於テ專ラ壓
 制拘束ノ條例ニヨリテ畫限セラル、如キニ在
 テハ他國ニ於テ之ヲ容認セサルナリ
 凡ノ物件ノ遞典賣買又其物件所在之地法ニ關
 ス例ルニ佛蘭西ニ於テ陸軍兵器ヲ賣ルヲ禁シ

日本ニ於テ鴉片ヲ賣ルヲ禁スルカ如キ即其地ニ到レル外民本貫ノ法如何ヲ問ハス彼西政府其境内ニ令シテ其賣買ヲ禁スルヲ以テ之ニ背ク能ハサルノ類ナリ又物件交付ノ式ニ於テハ人又須ク其物所在之地法ニ適遵セサルヘカラス普魯斯ニ於テハ物未タ買者ノ手ニ到ラサレハ賣ノ事成ラス佛蘭西ニ於テハ約諾全ク成ルトキハ必ス以テモ交付ヲ要トセス故ニ假令ハ佛京ノ某其普ニ有スル所ノ家什ヲ彼處ニ居ル佛人ニ賣ルトキハ之ヲ

交付セサル間ハ其家什未タ買主ノ有タラス又普人其巴里ニ有スルノ家什ヲ彼所ニ居ル普人ニ賣ルニ方テハ未タ之ヲ交付セサルモ其物件已ニ買主ノ有タリ然ルニ賣ルノ事了ル時ニ方ツテ其家什途ニ在リ其的着所在ヲ知ルヲ克ハサルトキハ則始ノ其終ニ止マル所ト定ムル地方ノ法此約束ヲ管理スヘク且此法ニヨリテ交付ノ事了レハ是ヨリ其有主タルノ稱何處ニ至ルト雖モ依然トシテ変スヘカラス物件籍有ノ權モ亦其不可動ヲ問ハス嗚其物

所在之地法ノミ之ヲ管理スルヲ得ルノ籍有ノ
 権ヲ得ル期限ノ間其物ヲ收把スルノ人屢國ヲ
 易フルキハ其經過セル谷國地法ノ定ムル所ノ
 籍有期限ヲ附加合算シ其數ヲ全クセサルヘカ
 ラス假令ハ伊太利ノ法物件籍有ノ権ヲ得ルノ
 期二年トシ西班牙ニ於テハ一年トセンニ若シ
 人アリ伊ニ於テ其物件ヲ覓着シ密ニ之ヲ收把
 スルト六月間然後移テ其終生ノ住址ヲ西班牙
 ニ占メ居ルト六月ヲ経レハ則西法ニ於テ要ス
 ル所ノ一年ノ期限伊ニ於テ經過セル六月ト合

シテ已ニ盡ルヲ以テ其人其物件ヲ籍有スルヲ
 得然ルニ若シ人アリ西ニ於テ某物件ヲ覓着シ
 之ヲ收把スルト茲ニ六月移テ伊ニ居ルニ方ッ
 テハ尚加ルニ十八月ヲ以テシ曩ノ六月ト合シ
 テ二年ノ期ヲ終ルニ非レハ籍有ノ権ヲ得ル克
 ハサルカ如シ蓋シ籍有ノ権ハ其物件ヲ收把ス
 ル騙詐強迫ニ因ルニ非ステ且其先有主某期
 限ノ間之ヲ復收スルカ為ニ決テ審廳ニ仰クト
 ナケレハ則其收把ノ人ニ許ス所トス
 凡ノ物件復收ノ告状ハ其審廳所在地法ノ定ム

ル所ノ式ニ從テ控白セサルヘカラス故ニ被告者住址ノ地ニ於テ之ヲ控白スルトキハ本貫ノ法其告状ヲ管理シ被告者ヲ覓着セル地ニ於テスルトキハ地法其案件ニ應用スヘク物件所在ノ地ニ於テスルトキハ物件所在之地法之ヲ所斷スヘシトス

抑浮財籍有ノ權ヲ得ルノ法國各其式ヲ異ニス故ニ其案件ノ成果亦自ラ差異アリ而ノ物件損傷ノ度ヲ定ムルノ法亦素一樣ナラス皆概シテ其争訟ヲ問治スル審廳所在ノ法ヲ用フヘキノ

三

凡ソ人物ヲ買フトキハ交付ノ事了ル迄之ヲ主理スルヲ得ス此時ニ方ツテ賣者ハ之ヲ交付スルノ義務ヲ負フ若シ之ヲ交付セサレハ之ヲ義務ニ背クトイフ而メ未タ之ヲ收把セサル間ハ買主到物ノ權ヲ有シ己ニ之ヲ收把スレハ及物ノ權ヲ有ス此權又名ケテ物主ノ權ト云フ又買主ハ其未タ收受セサルノ間ハ其物ニ就キ賣者ノ外他人ニ對シテ其權ヲ主張スル克ハス故ニ假令ハ茲ニ甲乙ノ二人アリ甲乙ヨリ某ノ物件

大 審 判 官
ヲ買フニ會々丙者来リテ乙ノ之ヲ甲ニ交付ス
ルヲ阻間スルキハ甲能ク乙ノ約ニ背クヲ控告
スルヲ得レトモ乙カ為ニ丙ヲ控告スルヲ得ス
又乙ハ其成約ヲ妨クルノ状ヲ以テ能ク丙ヲ控
告スルヲ得ルナリ又乙甲ニ物ヲ賣リ未タ之ヲ
交付セサルニ方ツテ丙曩ニ已ニ買主ノ在ルヲ
知ラスレテ其物ヲ買フモ已ニ之ヲ收把スルキ
ハ能ク之ヲ有スルヲ得何トナレハ甲丙共ニ其
物ヲ買フノ權ニ優劣ナクシテ丙ハ已ニ其物ヲ
收把シ了リ甲ハ未タ之ヲ主持セサレハナリ以

時ニ方ツテ唯甲ノ施スヘキノ策ハ違約ノ損失
ヲ償フカ為ニ乙ヲ訟庭ニ控告スルニ在ルノミ
下ニ載スルノ規律能ク上例ノ趣意ヲ解明スル
ニ足ルベシ
凡ソ一切義務ニ就キテノ控告ハ必ス當然ノ人
ニ對シテ為スヘシ原告人ハ其義務ヲ負フ所ノ
人ニ非レハ之ニ對シテ控告スルノ權ヲ有セス
蓋シ物件一タヒ人ノ手ニ入レハ百況直ニ變ス
有主ノ名賜予セラレ買主ノ權擴大セラレ他人
皆此人ニ對シ有主タルノ權ヲ妨クル克ハサル

ノ義務ヲ負フ而ノ物件交付ノ事了ル迄ハ賣者
 其約束ノ故ヲ以テ物件ヲ交付スヘキノ義務ヲ
 負ヒ已ニ之ヲ交付スレハ買主九世ニ對シテ主
 張スヘキノ権ヲ有シ未タ之ヲ收受セサルノ間
 ハ唯之ヲ交付スヘキノ義務ヲ負フ者ニ對シテ
 主張スルノ権ノミヲ有ス觀ルヘシ百況ノ變ス
 ルトヲ
 夫賣者ノ義務ハ其約束ヲ完成スルノ地法ニヨ
 リテ之ヲ限定スヘク有主ノ権ハ其物件所在之
 地法ニヨリテスヘシ而シテ此權ヲ犯ス者アレハ

亦唯其地法ニヨリテ審判スヘキトス譬ハ甲人
 米國ニ於テ日本ノ東京ニ航送スヘキノ約束ヲ
 以テ乙人ノ船ヲ買フニ乙人若シ其約ニ背クト
 キハ甲人何レノ國ヲ問ハス其人ヲ驅出スルノ
 地ニ於テ之ヲ控告スルヲ得而シテ日本ノ法其欠
 項ヲ審判スルカ為ニ必ス乙人ニ隨行ク之ニ反
 シテ乙人甲人ニ約ノ如ク船ヲ交付スルトキハ
 是ヨリ甲人有主ノ権ヲ受ケ此ヲ以テ九世ニ對
 シテ主張スルヲ得是ヨリ若シ其船事アリ英國
 ニ到レハ有主ノ權齊ク此ニ於テ保護セラレ但

此時ニ方テハ英國ノ法之ヲ保護スルナリ是ヲ以テ英國ニ在ル各人皆其船ニ阻間スヘカラサルノ義務ヲ負フ又若シ其船合衆國ニ來レハ其國法ヲ以テ同ク有主ノ權ヲ保護ス其他何國ニ到ルモ皆同一理ナリ

蓋シ義務ヨリ生スルノ權ハ之ヲ人的權ト云ビ有主タルヨリ生スルノ權ハ之ヲ物的權ト云フ義務亦二類アリ一ハ某ノ事ヲ為スヘキノ義務即家屋ヲ建テ欠項ヲ償フカ如キ是ナリ之ヲ名ケテ確諾義務ト云フ一ハ某ノ事ヲ為スヘカラ

サルノ義務即甲乙ニ約シテ乙カ家ヨリ若干距離ノ間ニ家屋ヲ建ツヘカラス或ハ某近傍ニ於テ某ノ高業ヲ開クヘカラスト約スル如キ是ナリ之ヲ名ケテ確否義務ト云フ而シテ日常最多ク有ル所ノ義務ハ則確諾義務ト為ス人若シ此義務ヲ破ルトキハ之ヲ其約束ヲ結フ所ノ人ヲ損害スト云フ彼有主ノ權ヲ保護シ他人ノ財有ニ阻間スルヲ防クモノハ即人ニ確否義務ヲ負ハシムルナリ

然而ノ約束ヨリ生スルノ義務確諾義務ト有主ニ對

之テ負フ所ノ義務確否義務トハ其間實際ニ於テ判
 然ノ別ヲ立テスニハアラス其故ハ若某甲某乙
 ニ某事ヲ為スヲ約シテ其約ヲ完クセサル片ハ
 其案件ノ故因義務ヲ破ルヨリ来ルヲ以テ某乙
 何國タルヲ問ハス某甲ヲ睥出スルノ地ニ於テ
 其審廳ニ控告スルヲ得是世間ノ通法ナリ又有
 主ノ權ヲ侵シテ負フ所ノ確否義務ヲ破ルトキ
 ハ其告狀其義務ヲ破リシ所ノ地法ニヨリ之ヲ
 審斷セサルヘカラス而メ此區別ヲ為スノ道理
 ヲ推スニ有主ノ權侵犯セラル、時ニ方ツテハ

必ス被告者ヲシテ其害ヲ致セル所ノ地法ヲ捨
 テ他國ノ法ニ從ハシムルノ理アルヘカラス然
 ルニ義務ヲ破ルノ例ニ於テハ被告者固ヨリ其
 之ヲ完成スル所ノ地法ニ從ハスシテ某ノ事ヲ
 為スヲ約スル者アルヘカラサレハナリ
 是ヲ以テ確諾義務ニ屬スルノ約束ハ其素能ク
 他處ニ遷移スヘク且何レノ國ニ至ルモ其始約
 束ノ完成ヲ期スル所ノ地法ニヨリテ之ヲ管理
 スヘシ而メ確否義務ヲ破レルモノハ其之ヲ破
 ル所ノ地法之ヲ罰スヘシトス

古有主ノ權ヲ侵セル者ヲ處スルノ通則ハ唯浮
 財有主ノ權ノミナラス實產有主ノ權ヲ侵セル
 例ニ於テモ亦之ヲ應用スヘシ故ニ假令ハ甲人
 乙人ノ田圃ヲ踰行クノ權ヲ有スルニ若シ之ヲ
 踰ルヲ妨ケラルトキハ甲人即其權ノ存スル
 所ノ處其權ヲ侵サレタル地即確ニ於テ其權ノ
否義務ヲ破ラレタル地
 校問ヲ請ハスニハアルヘカラス何トナレハ甲
 人田圃ヲ踰行クノ權ハ有主タルヨリ出ルノ權
 ニシテ縱令其田圃ハ他人ノ有タリトモ其之則
ヲ踰行ヲ得ルノ權ハ則亦有主ノ如シ則
 及物ノ權ナレハナリ其他一切人ノ身軀ヲ損シ

品行ヲ害シ財産ヲ傷クル等皆應ニ其損害ヲ被
 フル地ノ審廳ニ控白シ其地法ニヨリテ審斷セ
 ラルハヲ待ツヘシ
 物件ヲ典スルノ事ニ於テハ其法未タ疑ナシト
 謂フヘカラス何トナレハ尚其本源ノ道理ヲ講
 窮スル者少ナキヲ以テナリ羅馬律ニ於テハ典
 主典者ヨリ質物ヲ收受セサルモ受質ノ權直ニ
 有主ノ權タリ能ク此權ヲ主張シ他人ノ阻間ヲ
 防クヘク此權不可動ヲ問ハス一切物件ノ上
 ニ用フヘシ而シテ物ヲ質スルノ約束口辭ヲ以テ

スルアリ文書ヲ以テスルアリ黙中其意ヲ包藏
スルアリ皆妨ケナシ譬ハ茲ニ某父アリ其女出
嫁ノ日ニ方ツテ粧奩ヲ典ニテ約セニ其何
等ノ財産タルヲ言ハスト雖モ其父則粧奩ノ料
ニ供セシカ為ニ之ヲ質スルノ意ヲ包藏スルカ
如シ

紐育ニ於テハ家屋土地ヲ典スル必ス書證ヲ以
テセサルヲ得ス是ヲ以テ書證ヲ以テセスレテ
質ヲ受ル者ハ其約束ヲ勒行スルヲ得ス墨斯哥
ニ於テハ羅馬律行ハル、ヲ以テ凡ソ物ヲ典ス

ルニ口辭書證或ハ黙指ヲ以テスルモ皆妨ケナ
シ今墨ニ在ルノ人口辭ヲ以テ其本國及紐育ニ
有スル所ノ一切財産ヲ典當スルヲ約セニ墨
ニ於テハ其約法ニ叶フト雖モ紐育ニ於テハ法
ニ背クトス蓋シ紐育ニ於テ口辭ヲ以テ典當ス
ルヲ得サルニ二理アリ其一州法家屋土地及一
切之ヨリ得ル所ノ利ハ書約ヲ以テスルニ非レ
ハ人ニ交付スルヲ許サス其二州法凡家屋土地
ヲ出典スル者之ヲ其實產所在ノ邑廳ニ出テ簿
冊ニ登記スルニ非レハ續テ典主之ヲ賣却スル

モ出典ノ約束些ノ關係ヲ為ス克ハサレハナリ
然レトモ此口約墨ニ於テ為ス所ニシテ即墨ノ
局地法ニ叶フヲ以テ其後之カ為ニ争訟起ルト
キハ紐育ノ審廳債主ヲレテ其欠者ニ欠項ヲ償
ノ證書ヲ納レシムルノ告状ヲ問沼スルヲ許ス
ハレ是其保證書ヲ出典證書ニ代テ邑廳ノ簿冊
ニ登記スヘキカ為ナリ之ニ反レテ若シ此墨人
紐育ニ在リ口約ヲ以テ典當ヲ為ストキハ則其
局地法ヲ犯スヲ以テ此約束日後些ノ關係ヲ為
サスト雖モ墨ニ於テハ其實産ニ關スル有主ノ

権ニ就キテハ之ヲ法ニ叶フトスヘシ何トナレ
ハ其今ニ至テ採用スル所ノ羅馬法唯物件所在
ノ地法ノミヲ容認スレハナリ
凡ソ實産久享ノ権ハ單ニ権術擅制ノ法ニ出ル
者ニシテ唯其物件所在之地法ニヨリテノミ之
ヲ限定審斷スヘシトス其理後篇ニ解説スル所
ヲ以テ知ルヘシ
又物件所在之地法ヲ應用スルノ例浮財典當ノ
事ヲ以テ揭示スルヲ得ヘシ夫英國ニ於テハ實
産ノ外ハ欠者之ヲ債主ノ手ニ委スルニ非レハ

出典スルヲ得ス紐育ニ於テハ其手ニ委セサル
モ之ヲ質トシ且欠者之ヲ捺住スルヲ得故ニ若
シ紐育ノ人其英ニ有スル所ノ浮財ヲ質トシテ
某甲ヨリ財ヲ借ラシニ其他ノ債主往テ之ヲ抄
收スルヲ得是其物件所在之法此ノ如キ典當ノ
式ヲ許サ、レハナリ然ルニ英ニアル英人其紐
育ニ有スル所ノ浮財ヲ典當スルニ方ツテハ他
者来リテ之ヲ抄收スルヲ得ス是亦其物件所在
ノ法此ノ如キ典當ノ式ヲ許スニ由レハ也是ヲ
以テ物件所在ノ地法ヲ應用スルノ例類推スヘシ

第十二編

丙義務之法

前編已ニ開載スル如ク義務ニ二類アリ即某件
事ヲ為スヘキノ義務確諾義務某種事ヲ為スヘカラ
サルノ義務確諾義務是ナリ凡ソ此二類ノ義務何ノ
法カ之ヲ管理スルヲ知ラント欲セハ須ク左ノ
三件事ヲ思量セサルヘカラス

- 一義務之坐處
- 一義務ノ完成ヲ期スルノ地
- 一義務ノ案件ヲ審判スル訟庭ノ坐處

凡ソ各般ノ義務必ス兩夥黨ニ關涉ス一夥ヲ欠
者トイフ義務ヲ他夥ニ負フ者ナリ一夥ヲ債主
トイフ他夥ヲ催討スルノ權ヲ有スル者ナリ而
シテ債主ハ此權ヲ維持シ欠者ノ思意ヲ管理シ之
ヲシテ強テ其義務ヲ完成セシムルヲ得ルナリ
蓋シ公平ノ審判ヲ施行スルカ為ニ各國ノ法凡
ソ諸ノ權理ヲ侵犯セシテ之ヲ能シ得ルノ處
ニ於テハ通シテ欠者ヲ幫助ス故ニ特殊ノ形情
アルニ非レハ概シテ欠者ノ住址ヲ以テ義務ノ
坐處ト認做スナリ然リト雖モ欠者或ハ自ラ出

テ其好ム所ノ地法ニ服スルアリ此時ニ於テハ
其地ヲ義務ノ坐處ト做ス而シテ欠者服法ノ地結
約ノ始メ或ハ明ニ之ヲ著スアリ或ハ暗ニ其意
ヲ藏スルアリ要皆約上ノ事實ヨリ出ツ故ニ唯
其事實ニ照シ服法ノ處ヲ定メ以テ義務ノ坐處
ト做スヘキノミ抑義務ハ事實ヨリ生シ事實ニ
因テ終ル然ルニ事實ノ始マル處ヲ以テ義務ノ
坐處ト做ス其終ヲ如何セン加之約束ヲ結フノ
地ハ屢々偶然ニ出テ始メヨリ期スルニ非ス且
其約上事件ノ發生スル所ト地ヲ異ニスルト多

之ニ反シテ義務ヲ完成スルノ地ハ素ヨリ期
スルノ處ナレハ即約束成果ノ地ト一同ニシテ
之ヲ義務ノ坐處ト定ムルヲ最本當ト為ス然則
如何シテ約束完成ノ地ヲ定ムニ曰ク之ヲ定ム
ルニ方法ニアリ

一兩夥ノ直白スル所ノ思意ヲ以テスル一ナ
リ

假令ハ甲人し人ニ日本ニ於テ商貨ヲ交
付シ或ハ金錢ヲ償還スルヲ約スル如キ
是ナリ

一若シ約束ヲ完成スルノ地約状ノ中ニ著載
セサルトキハ其約束ノ情形ヲ以テ裁酌シ
兩夥始ノヨリ完成ヲ期スルノ地ヲ知ルナ
リ

然ルニ某ノ義務アリ其性情ヲ以テスルニ何レ
ノ地ニ於テモ能ク之ヲ完成シ得ハキニ似タル
モノアリ例スルニ他國ニ行ク所ノ人ニ使用セ
ラル、奴婢ノ義務或ハ他處ニ移搬スル所ノ物
件ニ中途ニシテ工作ヲ施ス如キ是ナリ是等ノ
例ニ於テハ約状ノ中其義務ノ完成ヲ期スルノ

處ヲ豫メ記載スルヲ得ヌ又完成ノ處ヲ豫メ定
メ得ルモノアリ即償債ノ約ノ如キ是ナリ又義
務ノ形情ニヨリ唯其完成ノ處ヲ定メテ始メテ
約束ヲ結フヘキモノアリ假令ハ某地ヲ墾闢ス
ルノ約束家屋土地ヲ假貸シ或ハ之ヲ修好スル
ノ約束ノ如キ是ナリ是等ノ例ニ在テハ始メヨ
リ其土地家屋ノ在ル所ノ地ニ非レハ其約束ノ
遂了ヲ期スル克ハサルナリ
凡ソ約束ヲ完成スルノ地ヲ定メサルノ諸案件
ニ於テハ之ヲ問治スルノ審廳先兩夥黨ノ意中

其完成ヲ期セシ所ノ地ヲ替窮シ之ヲ看出スル
ヤハ則其兩夥ノ者言ハスレテ其地ノ法ニ從ヒ
始メヨリ完成ヲ期セシヲ察スルニ足レリ
又其義務単純ニシテ唯約スル所ノ事物ヲ他夥
ニ遞與スルノミニシテ了ルモノアリ或ハ其義
務瞬間ノ勞作ニシテ了ルモノ其約束ヲ為スノ因
多年ノ蓄藏ニ出テ且其入約ノ前久ク之カ豫備
ヲ為スモノアリ
又多年間同一處ニ於テ殊異ノ操作ヲ為スヘキ
ノ義務アリ之ヲ事業ノ進行間ノ約束トイフ假

令ハ某ノ處ニ於テ代理ノ事務ヲ為シ或ハ銀行ノ經紀ヲ人ノ為ニ營ム如シ此類ノ例ニ於テハ義務ノ生スル所ノ地多クハ欠者本貫ノ地ナリ而シテ其義務ノ完成ヲ期スルノ處モ亦此ニ在リトス

又曩ノ義務草簡ニシテ唯約スル所ノ事物ヲ逸與スルノミニシテ了ルノ例ニ於テ其完成ノ地ヲ明ニ白セス且其義務欠者ノ地ニ於テ生スル片ハ其欠者ノ完成ヲ期スルノ地亦此ニ在リト裁酌スルヲ至當ト為ス而シテ其欠者心有テ故ニ

其住址ヲ替フルヲ造ス片ハ其始メ約ニ入ル所ノ地法之ニ隨ヒ行クヘク若シ其欠者偶然死ニ罹ルキハ其人縱令居ヲ他邦ニ移シテ死スルモ其欠項ハ子孫ニ纏累スルヲ法トス何トナレハ其欠者初メ約ヲ結ヘルトキ其地ヲ完成ノ地ト定メシヲ以テ債主ヲシテ其望ヲ失ハシムルノ理ナケレハナリ今試ニ一例ヲ挙テ之ヲ明サシニ加爾葛答ニ在ル一商某甲同所他商某乙ニ阿片一千斤ヲ賣ルヲ約センニ其義務ヲ期スルノ地ハ則同處ニアリトス然ルニ某甲其約ヲ完ク

大義

セス其賣買ヲ禁スル所ノ日本ニ移住シ死スル
トアルヘシ試ニ思ヘ此時ニ方ツテ其子孫祖先
ノ詭詐ニ依リ得ル所ノ債主ノ財産ヲ以テ甘メ
其富ニ浴スルヲ理アリトセンカ故ニ其案件起
ルニ方ツテハ日本ノ審廳必ス斷シテ曰ハシ若
シ其約束ノ完成ヲ此地ニ於テ期スルトセハ固
ヨリ我國法ノ禁スル所ナリト雖モ加爾葛答ニ
於テハ其法ノ許ス所ナレハ各國ノ通則ヨリ之
ヲ按スルニ欠者必ス彼地ニ於テ此義務ノ完成
ヲ期セシナルヘシ然ルニ之ニ背ケルヲ以テ債

主ノ折損ハ欠者ノ子孫互ク之ヲ償フヘシト
又或ハ懸ニ其本貫ヲ離レ欠者約束ヲ結ビ債主
其義務ノ完成ヲ欠者ノ本貫ニ於テ期スヘカラ
サルモノアリ假令ハ欠者外國ニ在リ商業ヲ開
キ營業ノ際人ト約束ヲ結ビ或ハ異邦派出ノ官
人必須ノ急ニ方ツテ財ヲ人ニ借リ驕旅ノ容儀
直ヲ負フ如キ是ナリ此類ノ例ニ於テ其賠償ノ
地ヲ約セサルハ債主ヲシテ其欠項ヲ討求ス
ルカ為ニ欠者ヲ追躡シテ其本貫ニ到ラシムル
ノ理アルヘカラス故ニ債主ハ初ヨリ入約ノ地

ヲ期シテ賠償ノ地ト為サ、ルヘカラス
又作工各處ヲ登回シ顧主ノ咐囑ヲ得テ物件ヲ
製造スル如キ例ニ於テハ初頭之ヲ見ルトキハ
其義務ノ成果甚タ疑シキニ似タリ何トナレハ
其物件ノ交遞屢々夾雜ノ辨理ヲ要セサルヲ得
ス乃チ其物件顧主ノ手ニ入ルマテ久ク中道ニ
留ルコトアリ或ハ作工之ヲ登載スレハ交付ノ
了ルト為スアリ或ハ顧主其物件ヲ收把シテ初
テ約束ノ事了ルト為スアリ顧主物件ヲ收把シ
テ約束ヲ完シト為ス者ハ即其物件ヲ承受スル

ノ地ヲ以テ義務完成ノ地ト定ムヘク物件ノ發
載ヲ約束ノ完成ト做スモノハ若シ途上偶難ニ
靚フテ其物件ヲ失フトキハ顧主其失ヲ受ケ若
シ作工約ヲ完クセサレハ顧主互々物件所在ノ
地ニ於テ其交付ヲ討求スヘシトス而シテ其物件
所在之地ニ於テスル者ハ作工業ヲ営ム所ノ地
法最能ク其義務完成ノ地ヲ審斷スルニ足ラ以
テナリ

凡ソ羅馬律ニ於テハ上卷ニ載スルカ如ク一個
ノ人ヲシテ多クノ本貫ヲ有スルヲ得セシメ且

原告者ヲシテ被告者ノ有スル所ノ數多本貫ノ
中ニ於テスレハ何レノ地ヲ問ハス其訟庭ニ控
白スルヲ許セリ故ニ其法ニ於テハ其義務幾斗
ノ小麥何頭ノ馬ト云フ如ク特ニ分載スル物件
ヲ遞典スルヨリ成ル者ニ於テ欠者若シ控白セ
ラル、キハ當時其物件所在之地ニ於テ之ヲ債
主ニ交付スルヲ許セリ是欠者ニ殊更ニ其物件
ヲ訟庭ノ在ル所ニ搬送スルノ勞ヲ省カシムル
ナリ然レモ若シ其欠者騙詐ノ意アリテ其物件
ヲ他所ニ移セルキハ之ヲ債主ニ交付スヘキ必

當ノ地ニ還送セシム蓋シ羅馬ノ律タル物上案
件ニ於テ此例ノ如ク原告者ヲメ能ク審廳所在
之地ト被告者ノ本貫トヲ擇ムヲ得セシメシト
雖モ身上案件ニ於テハ今法ノ如ク審廳所在ノ
法ヲ應用スルニ暗カリシナリ
通例人ノ約束ヲ結フノ方法左ノ如シ先ニ個ノ
人一處ニ相會シ一個ノ人其欲スル所ヲ陳出シ
別介ノ人之ヲ收納スルナリ而シテ此會合ノ地ヲ
入約之地ト名ク
或ハ約ヲ結フニ證券ヲ以テシ時ヲ異ニシ鬼ヲ

殊ニシテ之ニ押書スルアリ或ハ一夥ノ人使ヲ
別夥ノ人ニ遣シテ約ヲ結フアリ又或ハ書ヲ寄
セ約ヲ結フアリ即日本ニ在ル某甲紐育ニ在ル
某乙ニ某時某價ヲ以テ絹絲ヲ賣ラニテ陳出
シ某乙其陳出ノ意ヲ收納スル如キ是ナリ
凡ソ此時ニ方テ屢起ル所ノ疑件ハ其入約ノ地
何國ニ在ル其約束ヲ管理スルノ法何ノ國法ヲ
以テスルト云フニアリ蓋シ約束ハ其素両夥黨
ノ意思相合フニ出ルヲ以テ唯一著ノ定案能ク
其疑ヲ解クニ足ル一著ノ定案トハ何ソヤ曰ク

其收納ノ回書ヲ郵送スルノ地ヲ以テ入約ノ地
ト定ムルニアルノニ何トナレハ初メニ書ヲ寄
スルノ人ハ恰モ入約ノ望ヲ懷テ自ラ其地ニ至
リ別介人ノ收納ヲ待ツカ如ク而メ其書到届ス
ルノ間ハ唯一夥ノ意思發動スルノニ他夥已ニ
收納ノ回書ヲ郵送スルニ至テ兩夥ノ意思初テ
會同シ陳出ノ事實初テ効ヲ致スヲ以テナリ然
則其義務ノ坐處モ亦其答書ヲ寄スルノ處ニ在
ルカ曰ク否答書ヲ寄スルノ處ハ其人他夥ノ陳
意ヲ收納シ約束ヲ結ハントスルノ意ヲ含ニテ

他夥ヲ見シカ為ニ行キレ處ニ異ナラス又其答
書ハ素ヨリ其之ヲ寄ル所ノ地法ニ服従スルノ
意ヲ表スルニ非ス且縱令回書ヲ投セスレテ自
ラ他夥ノ地ニ到ルモ其地ヲ以テ其本貫ト為ス
ノ意ヲ表スルニハ非サルナリ然レモ初ノヨリ
其地ヲ以テ約束完成ノ地ト定ムルハ之ヲ義
務ノ坐處ト為ス固ヨリ論ヲ俟タス故ニ假令ハ
某甲日本ニ在ル某乙ニ書ヲ致シ加爾葛答ニ於
テ若干量ノ阿片ヲ賣ラニテ陳出シ某乙其意
ヲ收納スルハ加爾葛答ハ即義務ノ坐處ト為

スヘク而ノ日後此約束ニ就キ争訟起ルハ縱
令其案件日本審廳ニ於テ問治セラル、モ其約
束ハ加爾葛答ノ法ニヨリテ勒行セシムヘキカ
如シ

銀單使用ノ事ニ於テハ方今商事ノ急煩ナルヨ
リ其義務ノ坐處ヲ定ムル前ノ如ク一定ノ法ヲ
用フルヲ得ス宜ク取捨増減スヘキナリ
凡ソ銀單ヲ引用スル者銀單ニ簽名スル者銀單
ヲ收領スル者ノ責任ハ皆各其銀單ニ押書スル
所ノ地法之ヲ管理スヘシ即銀單ヲ製作スル所

ノ地法ハ引用者ニ對シテ用フヘク簽名スル所
ノ地法ハ簽名者ニ對シテ用フヘク收領スル所
ノ地法ハ收領者ニ對シテ用フヘシ故ニ右三夥
ノ中不正騙詐ノ事ヲ為ス者アリ銀單ヲ收把ス
ル者違約ノ損害ヲ償ハンコトヲ訟庭ニ控告スル
コトアラニニ右三處ノ法夥人ノ任ヲ責ルニ輕重
アルキハ原告者亦其償金ヲ得ルニ自ラ多寡アリ
尚詳ニ之ヲ言ヘハ收把者得償ノ權ハ全ク其
地法ノ稱責討求稱責拒討銀單偽用ノ報等ヲ律
スル規則ニ關スルナリ

譯者曰ク此條銀單使用ノ事ヲ了知セサル者
或ハ之ヲ解セサルヲ恐ル後日開板ノ時ニ方
ツテ詳ニスヘシ

又曰ク本文ノ意義務ノ坐處豫メ定ムヘカラ
サルヲ以テ唯銀單ヲ把持スル者其之ヲ受ル
人ト約束ニ入ルノ地ヲ坐處ト觀做スヘキヲ
云フナリ

又犯罪ノ案件ニ於テハ其裁決ノ地素ヨリ自出
テ地法ニ服スルノ論ニ關スルニ非ス故ニ前行
ノ諸例ハ之ニ應用スヘカラス則其罪ヲ犯セル

所ノ地ヲ以テ直ニ問治ノ地ト為スヘキノ三
今義務ノ坐處ヲ看出セハ次ニ互ク何レノ法カ
其夥黨ノ義務ヲ判理スルヲ探討スヘシ蓋シ義
務ノ坐處ヲ定ムルハ素其夥黨ノ自ラ出テ服ス
ルノ法ヲ知ルニ在リ而シテ夥黨ノ義務ヲ審判ス
ル所ノ法ヲ看出スル亦其自ラ出テ服スル所ノ
法ヲ看出スルニ外ナラス左ノ規則能ク之ヲ助ク
ルニ足ルヘシ

第一凡ソ義務其完成ノ地初ヨリ定マルモノ
ハ其地法即之ヲ管理スヘシ

第二凡ソ義務欠者ノ事業進歩ノ間ニ起ルモ
ハ其事業ヲ営ム所ノ地法之ヲ管理ス
ヘシ

第三凡ソ義務欠者ノ單簡ノ操作ニ起ルモノ
ハ其操作ヲ為ス所ノ地法之ヲ管理スヘ
シ

第四凡ソ違ニ欠者ノ本貫ヲ去リテ約束ヲ為
シ其事ノ形情債主其完成ヲ同所ニ於テ
待ツヘキカ如キハ則其地ノ法之ヲ管理
スヘシ

第五右件四條ノ事實ヲ缺クモノハ尺者本貫
ノ法更ク其義務ヲ管理スヘシ

凡ツ審判ヲ乞フノ地ハ原告者往々之ヲ擇ムヲ
得レトモ其義務ヲ管理スルノ法ニ至テハ之ヲ
擇ム克ハス唯其案件ヲ校問スルノ審廳能ク普
通ノ原理ニ基キテ之ヲ定ムヘキノミ

是ヲ以テ致書約束ニ入ル如キ例ニ於テハ誘約
ノ書ヲ受ケ回簡ヲ郵送スルノ地ヲ以テ義務終
歸ノ坐處ト為スヲ得ス何トナレハ其初一夥陳
出ノ意ヲ領シ其約ニ入ル所ノ夥人多數之アル

トアルヘク又其夥人皆別處ニ住スルトアルヘ
シ加之初ノニ誘約ノ意ヲ陳シテ書ヲ致スノ人
ハ尙前ノ作工ノ顧主ノ居處ヲ巡回シ其咐囑ヲ
要スル者ト同一様ノ觀ヲ做スヘケレハナリ抑
義務完成ノ地ニヨリテハ能其義務ヲ管理スル
ノ地法ヲ看出スルニ足ルト雖モ若シ其完成ノ
地約束ノ中ニ見ヘサル片ハ前ノ第五則ニ載ス
ル如ク各夥黨住址ノ地法ヲ用ヒスレテ將何ノ
法ヲカ是用フルヲ為サン

又外ニ出ル代理者ノ権理ニ就キテハ說者ノ議

論紛紜縷析ス中ニ就テ船長ノ権理ノ如キ最論
難ヲ極ム

夫船長ハ船主ト貨主トノ為ニ代テ事ヲ理ルモ
ノナリ其船桅ニ颯揚スル所ノ旗章ハ船主貨主
ノ自ラ出テ其法ニ服スル所ノ國ヲ示スナリ又
船主船長ノ服役スル所ノ國ヨリ賜ハル所ノ権
理ト之ニ奉スヘキノ義務ヲ表スルナリ故ニ大
抵各般ノ例ニ於テ船桅ニ掲ル所ノ旗章ハ船主
住址ノ國ヲ示スモノト做ス
是ヲ以テ凡ソ外ニ出ル代理者ト約束ヲ為スノ

人ハ囘ク詳ニ其代理ヲ遣ハセル主者ヲ管理ス
ルノ法ヲ知ラサルヘカラス蓋シ代理者ノ権ニ
明任アリ暗任アリ若シ夫明任ノ者ハ任スル所
ノ權分ヲ文書ニ載スル者ニシテ代理者其範圍
ヲ当ルヲ得ス若シ夫暗任ノ者ハ代理者ノ權任
主者本貫ノ地法之ヲ限定ス故ニ代理者ト事ニ
與ル者ハ又須ク代理者ノ主者ヨリ受ル所ノ示
指如何ヲ看出セサルヘカラス何トナレハ代理
者若シ其權カヲ妄用スルトキハ主者其責ニ任
スヘカラサレハナリ然ラハ則其暗任ノ者ニ在

テハ如何シテ其受ル所ノ示指ヲ知ラニ曰ク前
ニ言フ如ク其所為ヲ管理スル所ノ法ヲ知ルニ
在ルノミ今假令ハ紐育ニ股分會社ジヨイニト、
トベニアリ其會社ノ財本法ニヨリテ限定セラレ
ルカ或ハ會社其代理者ニ財本ノ高ヲ限リテ其
權ヲ任センニ其代理トシテ他邦ニ遣ラレタル
モノ此本國ノ法ヲ犯シ能フトセハ其國法何ノ
益ヲカ為ニ凡ソ船載スル貨物ヲ損傷スルカ之
ヲ亡失スルニ方ツテ船主其船ヲ全ク貸ス所ノ
者ニ委任スルトキハ能ク後日ノ責任ヲ免ル、

ヲ多國ノ法トス然ルニ其事船長不正ノ所行ニ
出ルニ方ツテ船主ヲレテ其欠項ヲ償ハシムル
トセハ其國法果シテ何ニ用フルヲ為サニ
蓋シ船主ノ為ニ外ニ出テ約束ヲ為スノ船長ハ
猶命ヲ奉シテ他國ニ到ル使者ノ如ク又顧主ノ
咐囑ヲ受ルカ為ニ各所ヲ巡回スル者ノ如シト
做サハ其約束ノ完成ヲ期スルノ地素ヨリ其本
國ニアラズンハ非ラサルナリ
或ハ曰ク凡ソ約束債主ノ住址ニ於テ其完成ヲ
期スルニ方ツテ若シ欠者ノ代理者更ニ特權ヲ

有セサルカ或ハ其受ル所ノ權ヲ妄用スルトキ
ハ此ノ如キ任セサル所為ヲ以テ其欠項ヲ代
理者ヲ用フル者ニ負ハシムルハ甚理ニ當ラス
トス然レトモ著書者多クハ此說ヲ擯斥シ代理
者入約ノ地法ヲ以テ其約束ノ完成スルノ說ヲ
取ル

凡ソ前條義務ノ案件ヲ一審廳ニ於テ決裁スル
ノ後他國ノ審廳ニ於テ之ヲ容認シテ最末ノ審
判ト為スヤ否ヤニ就キ疑難少ナカラス或人之
ヲ尤ノ三項ニ分ケ以テ最末審判ノ處ト為ス

義務ノ欠項ヲ満全セシムルニ被告者ノ財
産ヲ抄没スル處物主ノ名ヲ他人ニ讓與ス
ルヲ命スル處被告者ニ某物ヲ償ヒ某事ヲ
作スヲ命シ且其命ヲ他國ニ於テ勒行スル
ヲ得セシムル處一ナリ

一審廳ノ審斷被告者ヲ庇シ債主再ヒ他國
ノ訟庭ニ於テ告狀ヲ始ルトキ被告者其討
求ヲ及攻スルカ為ニ前ノ審廳ニ於テノ區
處書ヲ示スノ處ニナリ
一審廳ノ區處ニヨリ被告者ノ財産ヲ抄没

レ債主ニ欠項ヲ償ハシメレ後債主再ヒ外
國ニ於テ告状ヲ始ムルトキ被告者債主ニ
反攻レテ已ニ其欠ヲ償ヒタル證ヲ示レテ
反訴スルノ處三ナリ

右三處ノ中第一處ノ義務ヲ満全セシムルニ被
告者ノ財産ヲ抄没スルノ處ハ他國ニ於テ之ヲ
決獄ノ地ト為スノ論ニ至テハ説者未タ決セス
蓋シ決獄トハ其區處セル所ノ審判ヲ以テ他國
ノ審廳ニ於テモ同ク之ヲ終末ノ審斷トナレ再
ヒ之ヲ校問セシテ其區處ノ條件ノ成果ヲ助

クルモノヲ云フ茲ニ一則アリ以テ決獄ヲ定ム
ルノ基本ト做スヘシ即凡ソ決案ヲ下命スルノ
審廳審斷ノ權ヲ有セス或ハ説騙ニヨリテ其決
案ヲ得或ハ其決案一回ノ校問ナクシテ案件ヲ
決定シ或ハ被告人出廳ノ機會ヲ得サリシニ獄
ヲ定ムル如キ不正偏頗ノ事ヲ藏シ或ハ定案言
上ニ大ナル謬誤アルカ或ハ其審廳萬國通法ノ
本意ヲ誤解シテ處斷セシ等精確ノ推尚ヲ為ス
ニ非ルヨリハ皆其定案ヲ認テ終末ノ審判ト做
スヘシ

英米ノ書ヲ著ス者通例第一條ニ載スル者ニ比
スレハ第二條ノ裁決ヲ以テ審判ノ成果ト觀做
スル者多シ

凡ソ何レノ國ニ於テモ身上案件ノ決獄ニ比ス
レハ物上案件ノ決獄ヲ認テ成果ト做スト多シ
蓋シ物上案件ノ決獄ノ地ハ物主ノ權或ハ人ノ
權分校問セラレ或ハ物主ノ權審廳ヨリ抄收ノ
命ヲ下シテ褫奪セラレ、ノ處ヲ指ス今一例ヲ
引テ之ヲ明サニニ若シ日本ノ法阿片或ハ他ノ
禁藥ヲ登岸セントスルノ船ハ之ヲ抄没シテ官

ニ入ル、ヲ告示セシニ外國ノ船此法ヲ犯シ為
ニ捕收公賣セラレ、トキハ此審判ヲ以テ決獄
ト為スカ如シ何トナレハ則其藥品ノ登岸ヲ禁
スル等ノ事是其國法ナル一ナリ其船國法ヲ犯
セルニナリ其船罪案ニ處セラレ、三ナリ其船
已ニ賣ラレタル四ナリ此四ヶノ事實アルヲ以
テナリ而シテ其決案書中ニハ必ス此事實ヲ載セ
サルヘカラス若シ之ヲ載セサレハ決案ト認ム
ヘカラス故ニ上例ノ如キ日後日本人若シ右公
賣ニ出ルノ船ヲ官ヨリ買フ者アリ後航シテ前

船主ノ國ニ到ルモ船主之ヲ復收スルヲ得ス何
トナレハ其審斷已ニ終末ノ決案ナレハナリ今
若シ一婦アリ紐育ニ於テ人ニ嫁シ次テ法ノ如
ク離婚セラレニハ是其審廳ノ審斷其婦タル
ノ推分ヲ奪褫スル者トス故ニ此婦人日後日本
ノ審廳ニ出テ其妻タルノ推分ヲ要討スルモ審
廳ヨリ其婦ハ已ニ人ノ妻タラスト審斷スル中
ハ之ヲ決案ト做スハキカ如シ之ヲ要スルニ物
上案件決獄ノ所在ハ有物ノ價直若干ヲ原被告
者ノ為ニ保持償還スルヲ決スルノ處或ハ其審

判人ノ推分ニ關涉スルノ處ニ在リ身上案件決
獄ハ約束ニ背ク所ノ地ニ於テ其人ニ對シ得ル
所ノ審判反被告者ノ惡為ヲ其處ニ於テ罪スル
ノ審判ヲ云フナリ抑物上案件決獄ノ審判ハ争
訟フル所ノ物件必シモ之ヲ問治スル審廳所轄
ノ地内ニアラサレハ他國ニ於テ之ヲ認メス而
ノ被告者ノ住址其境内ニ在ル無キヲ問ハス身
上案件決獄ノ審判ハ控告セラル、所ノ人必シ
モ審廳所轄ノ境内ニ住スルニ非レハ他廳ニ於
テ之ヲ容レサルナリ

凡ソ約束ニ就キテノ案件起ルニ違ヘハ之ヲ問
治スル審廳ノ要務ハ先其兩夥ノ約束ニ入ルノ
本意ヲ看出シ次ニ應當ノ法ヲ用テ其約束ヲ管
理スルニ在リ故ニ假令ハ某甲紐育ヨリ英人某
乙ニ書ヲ致ス¹アランニ其書中ニ陳載スル所
ノ詞句ヲ顧思シ精ク之ヲ了會スルヲ要トス若
シ其詞句ヲ了會セント欲セハ須ク其文意紐育
ニ於テ如何ノ成果審判ノ得ヘキヤヲ知ラサル
ヘカラス何トナレハ凡約束ハ其書ヲ指シ致ス
所ノ地法之ヲ管理スヘシト雖モ概シテ文中ノ

詞章ハ之ニヨリテ其書スル所ノ地法ヲ解釋ス
ヘケレハナリ

然ルニ貨幣ノ原位權衡尺量ノ標準等ハ約書ノ
中殊ニ相反スルノ意思ヲ陳載スルニ非レハ約
束完成ノ地ニ於テ用フル所ノ者ニヨリテ之ヲ
裁量スヘシ假令ハ紐育ニ在ル某人日本商賈某
ニ一萬元償ノ商貨一樽當十元ノ麵粉一千樽一
「ヤルド」當二元ノ罽布一千「ヤルド」ヲ船載シ送ラ
シニ其金價樽量尺度等ハ其初他國ノ標準ヲ用
フヘキノ約アルニ非レハ日本商賈ノ習用ニヨ

リテ比定スル所ノ價直標準ヲ記載スヘキカ如
レ故ニ又英ニ於ル某紐育ニ在ル某ニ一「¹ヤル
ド」ノ絨布ヲ一「¹ヤルド」一「¹パオンド」ノ價ヲ以テ載
送スルトキハ先何元ヲ以テ英金一「¹パオンド」ニ
兌換スヘキヤヲ看出スヘシ若シ其價ヲ金「¹ドル
ラ」ニテ定ムルトキハ之ヲ楮幣「¹ドルラ」ニ兌
換スルノ價ヲ定ムヘシトス而シテ紐育ノ某ハ米
國金「¹ドルラ」ト英金「¹パオンド」トヲ比較シテ其
債ヲ償ヒ或ハ米金ヲ楮幣ニ比較シテ之ヲ償フ
ヘシトス

凡ソ義務即納束ハ之ヲ廢棄スルニ四箇ノ條件
アリ強逼ニ出ルモノナリ欺騙ニ成ルモノナリ
不均ニ係ルモノナリ輕為ニ因ルモノナリ此四
者名ケテ差謬ト云フ夫人約束ヲ結フ必ス兩夥
ノ意相合セスンハアラス若シ其意合セスンハ
其約束ノ目的トスル所何ソ互ニ其心ニ允肯ス
ルヲ得ン差謬ニ依ル者ハ皆之ヲ缺ク故ニ之ヲ
廢棄スルヲ得ルナリ今詳ニ之ヲ辨セン
夫強逼ニ出ルモノトハ人ヲ恐嚇スルニ成ヲ以
テシ強テ其約ニ入ラシムルヲ謂フ欺騙ニ成ル

モノトハ則誠信ニ反對セル不正不義ノ意向ニ
成ルモノニシテ若シ對手其較計ヲ看破セスシ
ハ其虚ニ乘シテ成サントスル所ノ約束ヲ指ス
不均ニ係ルモノトハ一夥ノ逸賣スル所ノ物件
其錢價ニ比スレハ真價總ニ半ニ足ラサルモノ
ヲ称ス輕為トハ金錢ノ比價推衡ノ以重尺度ノ
以量ヲ約状中ニ載セサルカ或ハ法ヲ犯セルカ
假令ハ日本ニ於テ阿片ノ或ハ假作ニ出ルモノ
價金ヲ償フヲ約スル如シ
凡ク義務ヲ廢棄スルノ案件ハ亘ク其義務ヲ管
ヲ名ク

理スル所ノ地法ニヨリテ決裁スヘシ故ニ不均
ニ係ル者ノ如キハ縱令欺騙ニ出ルニ非ルモ澳
太利ニ於テハ之ヲ告状ノ故因ト做スト雖モ英
米二國ノ法ニ於テハ全ク欺騙ニ因ル者ニ非レ
ハ之ヲ以テ浮財實産逸賣ノ約ヲ廢スルノ故因
ト為スヲ得ス今譬ハ米國ノ人澳太利ニ在リ人
ト英國ニ於テ完成スル所ノ約束ヲ結ハシニ其
義務ハ英法ノ管理スル所ナレハ若シ其米人不
均ノ約ニヨリテ控告セラル、モ其告状之カ故
因ト為スヲ得ス然ルニ其人英ニ在リ澳太利ニ

於テ完成スヘキ某約束ヲ結フトキハ其告状英
ノ審廳之ヲ校問スト雖モ澳法其義務ヲ管理ス
ルヲ以テ不拘ニ係ルノ約ハ之ヲ故因ト為スヘ
キカ如シ

又物件籍育ノ期限モ亦局地法之ヲ限定スヘク
其案件ヲ問治スル地ノ法之ニ間阻スルヲ得ス
若シ此定規ナクニハ或ハ原告者等閑ニ棄置ス
ルヲ年久クシテ其法期限ヲ定ムル最長キ所ノ
訟庭ニ出テ之ヲ控告スルヲアルヘク或ハ欠者
其期限ヲ定ムル最短キ地ニ移轉シテ債主ヲ贖

虧スルヲアルヘシ故ニ其義務完成ノ地已ニ定
マリ欠者成ニ背クトキハ債主能ク之ヲ欠者ノ
住址ニ於テ控告スルヲ得又能ク之ヲ其睇出ス
ル地ニ於テ控告スルヲ得是曩ニ所謂佛律ヲ除
クノ外一切義務ノ案件ハ被告者ニ隨行クト云
フモノナリ

第十三編

丁 繼嗣之法

繼嗣トハ何ソヤ人死シテ其財產他人ノ手ニ移
ルヲ云フ其様ニアリ

其一 直白意思者 是有主生前遺書ノ中ニ
死後ニ其財産ヲ讓與スルノ人ノ示指
スルモノヲ云フ

其二 不白意思者 是有主生前遺書ヲ立ス
レテ其財産ヲ傳遺スルノ人ヲ指示ス
ルノ權ヲ法ニ委スルモノニシテ其人
即法ニ黙從スルモノトス

凡ノ繼嗣ノ事ヲ管理スルハ皆人的法ヲ用フ何
トナレハ其事專ラニ人ノ身上ニ關スルト多ク
其物件ノ上ニ關スルトアルハ特リ偶然ニ出ル

ノミナレハナリ而ノ所謂人的法ハ人ノ權分ニ
關スルヲ以テ唯其人本貫ノ法ニヨリテノミ限
定セララル

若シ人其本貫ノ法ヲ措テ顧ミスンハ必ス歸テ
物件所在ノ法ニ仰カサルヲ得サルヘシ然ルニ
其死者或ハ其財産ヲ數多殊異ノ國ニ散有スル
トアルヘク又其財産或ハ稱賣契約等ノ現ニ其
存スルヲ見ルヘカラサル者ヨリ成リ或ハ田土
獸畜等ノ現ニ存スル物ヨリ成ルトアルヘシ此
時ニ方ツテ單ニ此法ヲ用ヒントスルモ得ベカ

ラス何トナレハ此法唯有形ノ物ニ用フヘクシ
テ無形ノ物ニ用フヘカラサレハナリ或ハ曰ニ
其財産ノ多数在ル所ノ地法ヲ活用スヘシト蓋
シ財産ハ本無常物若シ或ハ一夜ノ間ニシテ烏
有ニ歸スル等ノ事アラハ何ニ依テカ此法ヲ用
フルヲ為サシ是甚憑ルヘカラサルノ説ナリ况
ヤ其財産ノ數ハ少ナキ者ト雖モ法ニ於テ觀ル
トキハ其多キ者ト素ヨリ輕重ノ別ナキヲ又
或ハ曰ニ然ラハ則死者遺產ト在ル所ノ處每ニ
其法ニ從テ継嗣ノ事ヲ定メント是亦言フ可ク

シテ行フヘカラサルノ事ナリ何トナレハ継嗣
ノ法ノ如キ各國幾様皆相牴牾ス若シ成ク之ヲ
採用セシト欲セハ幾多ノ葛藤隨テ生シ又其費
用給スヘカラサルニ至ラシ是ヲ以テ是等ノ煩
累冗費ヲ省カントセハ唯當ニ其人ノ死ニ方ッ
テ住址ト為ス所ノ地法ヲ應用スヘキノ三凡ッ
此ノ如クニシテ方ニ始テ之ヲ一凡ノ通則ト為
スヲ得ヘシ

羅馬國亡フルノ後所謂闇昧世代ノ間ハ大以テ
小ヲ侵シ強以テ弱ヲ虐ス名教全ク地ニ墜テ人

権措テ問ハレス唯暴力能ク之ヲ保ツテ得此時
ニ方ツテ凡民称貸ノ利皆天主教徒ノ收没スル
所ト為ル故ニ民更ニ財本ヲ商事ニ放債スル者
ナク貿遷ノ業隨テ衰亡ス又彼萬國通法ナル者
未タ之ヲ講スル者ナク異國ノ人ハ到處皆認テ
讎仇ト為ス況ヤ其権理ヲ識認スルニ於テヤ
凡ソ此強暴無智ノ世代ノ間ハ死者ノ遺業一毫
モ外邦ニ居ル子孫ニ交付スルヲ許サレス其國
王或ハ籍土ノ君必ス之ヲ收没セリ是ヨリ物變
リ星移リ商事稍故ニ復シ人智再ヒ明ニ向フニ

隨テ諸ノ法制良寛裕トナリ繼嗣ノ法モ亦其産
ヲ受ル者ノ内民外民タルヲ問ハス死者遺物ノ
在ル所ノ地法ヲ用テ之ヲ管理スルニ至レリ此
制蓋シ前ノ闇昧世代ノ法ニ比スレハ大ニ開明
ニ進ムモノトイフヘシト雖モ尚未タ束縛ノ為
ヲ免レス故ニ内外ノ交易未タ盛ニ發暢スルニ
至ラス抑交易貿遷ノ事ハ偏ニ人民互相ノ信任
ト内外同視ノ保護トニ関スルナルニ此法ヲ以
テスル如キ人ヲシテ皆其意ヲ枉テ他人ニ遺業
ヲ傳ニトヲ恐ル、ヲ為ニ外ニ於テ財産ヲ有ス

ル者ナカラシムルニ至ル唯其是ノミナラス此
法又死者ノ遺セル称責ニ就テ勢禦クヘカラサ
ルノ煩冗ヲ起セリ何トナレハ此法ニ依テ死者
ノ遺業ヲ管理スルニ物件所在ノ法ヲ用フルト
キハ猶前ニ言フ如ク若シ其死者可動物此者ノ遺セル
称責亦此ヲ各國ニ散存スルニ方ツテハ每國互
ニ継嗣ノ法ヲ殊ニスルヲアルヘク隨テ一處ノ
法某人ニ遺業ヲ受ルヲ許スモ他處ノ法更ニ之
ヲ容認セサルヲアルヘケレハナリ凡ソ此等滙
雜不確ノ弊害ヲ祛キ貿遷交易ノ事業ヲ獎勵セ

シカ為ニ各國ノ法家世々相承テ古法ヲ改削シ
簡明博綜ノ審法漸ク洩発スルニ向ヘリ然リト
雖モ今ニ至テ四方ノ法家尚聽ルニテ謂フ此法
尚改修ヲ容ルノ處多シト余曰ク萬國通私法ノ
理制未タ全ク備ハラス特リ商事ヲ務ムルノ國
將ニ其地位ニ近ラントスト謂フヘキノミ
蓋シ浮財實産ノ間ニ別ヲ立テ之ヲ管理スルハ
大ニ又継嗣ノ法ニ關係アルヲ以テ此ニ再ヒニ
三ノ異説ヲ掲載シ以テ其取舍ヲ辨スルニ便ス
凡ソ浮財實産ノ殊別方今多國ニ之レアリ殊ニ

大蔵省

英米二國其別最嚴凡ソ遺傳ノ浮財ハ何國ニ於
テモ其人死スル時ニ方ツテ住スル所ノ地法ニ
ヨリテ之ヲ管理スヘシト做シ實産ハ英米ニ於
テハ其物件所在ノ地法ニヨリテ管理セラル又
己ニ前卷ニ載スル如ク近世日耳曼ノ大家等ハ
其區別ヲ棄テ一切ノ物件其不可動ヲ問ハス
其有主終ニ臨ニテ住スル所ノ地法ニヨリテ管
理スヘシトイフノ説ヲ採ル之ヲ駁スル者曰ク
夫高買ノ他國ニ出テ家屋田地ヲ買フ者世ニ幾
何カアル然則テ之ヲ以テ他商貨ノ如ク賣買ノ

物件ト為ス能ハサルヤ必セリ況ニヤ實産ヲ管
理スルニ其所在ノ地法ヲ用ヒサルトキハ動モ
スレハ其久享ノ權ニ障ケアルヲヤト又此説ヲ
批スル者ハ曰ク凡外高ノ資ニ富ム者屢大ナル
称貸ヲ為スト多シ若シ是等ヲシテ實産ヲ有ス
ルヲ得セシメハ應ニ實産ヲ質トシテ称貸スル
者漸ク多カラニ是國ニ財本ヲ増殖スルナリ且
彼久享ノ權ノ如キ政府ノ某個人及其定リタル
繼嗣ニ賜フ所ノ准許ニシテ某個人死スレハ其
繼嗣ニ傳ヘ繼嗣死スレハ逸傳子孫ニ至ル故ニ

之ニ金錢ヲ貸ス者アルモ其田土ヲ抄收シテ尺
項ヲ償ハシムルヲ得ストス然ル如キハ特ニ其
政府ノ推策ニシテ素ヨリ擅制束縛ノ法制ニ屬
ス況ニヤ此法ヲ立ルト雖モ其特許ヲ受ケサル
等類ノ有セル所ノ田土ハ猶他商貨ト齊ク常ニ
壟斷場中ノ一賭物タルニ過キガルヲヤト
凡ソ人ノ遺言ヲ為シ継嗣ニ其産ヲ遺スノ能力
ハ猶人ト義務ニ鞅掌スル能力ノ如ク其人本貫
ノ法之ヲ限定ス故ニ普魯斯ニ於テハ二十四歳
ニ滿タサル者之ヲ為スヲ得ス英米ニ於テハ二

十一歳ニ滿レハ之ヲ為スヲ得若シ其年庚二十
四歳ニ滿タサル普人其遺書ヲ立ルニアラシニ
英ニ於テモ之ヲ法ニ叶フト認メス而シテ若シ其
人故ニ其遺書ヲ立シカ為ニ英或ハ他ノ二十一
歳ヲ成丁ト為スノ國ニ移住スルモ其遺言ヲ法
ニ叶フトモノト做シトスレハ更ニ其地ニ於テ遺
書ヲ立テスンハアラス何トナレハ其遺書ヲ改
メ立ツルマテハ其本國ノ法ニ於テ廢禁スルモ
何國ニ到ルト雖モ之ヲ認テ假虛ニ出ルト做
スヘケレハナリ

夫遺書ニ依リ事ヲ為スト為スヘカラサルトハ
又其人最後住址ノ法ニ関ス故ニ今日本人某英
國ニ住シ遺囑ヲ立テ其財産ヲ阿片ニ放債シ其
所得ヲ家屬ニ給セシトヲ指示セシニ英ノ如ク
阿片ヲ以テ商貨ト做スノ國ニ於テハ到處此遺
書ヲ認テ式ニ叶フト做スヘシト雖モ若シ其人
日後英國ヲ去リ再ヒ日本ニ還住スルトキハ此
遺囑到處皆認テ法ニ違フト為スヘシ何トナレ
ハ其終址ノ日本ニ於テハ此ノ如キ遺書ヲ立ツ
ルヲ禁スレハナリ

凡ソ人若シ其終ニ臨テ遺書ヲ立テスレテ死ス
ルトキハ其終末住址ノ法其遺業ノ傳移ヲ管理
ス假令ハ紐育人日本ニ行キ住址ヲ得然ル後死
スルトキハ其財産繼令紐育ニ在ルモ其遺傳ノ
事ヲ定ムルハ日本ノ法ヲ以テスヘシト又之
ニ及ンテ日本人紐育ニ住址ヲ得死スルキハ則
紐育ノ法ニ從テ其遺業ヲ管理スヘシトスルカ
如シ但前卷已ニ揭示セル如ク凡ソ人其地ヲ終
生ノ居處ト為シ且其事務ヲ經營スルノ本處ト
為スノ目的ヲ以テ移住スルニ非レハ之ヲ本貫

ト為スヲ得ス故ニ今紐育ノ人右件ノ目的ナク
レテ日本ニ移住スルトキハ之ヲ假寓ト云フ若
シ其地ニ於テ死スルモ其本貫ハ尚紐育ニ存ス
ルヲ以テ其遺業相傳ノ事亦紐育ノ法之ヲ管理
スヘシト為ス

凡ソ死者ノ遺業ヲ承ル者ノ能力ハ其嫡裔タル
ト死者ノ遺言ニ依リテ示指セル人タルトヲ問
ハス皆其本貫ノ法ニ關シ遺業者本貫ノ法ニ關
セス故ニ假令ハ日本ニ在ル某甲紐育ニ在ル某
乙ニ遺業ヲ傳シニ若シ某乙偶狂病ヲ發スルニ

會フキハ某乙直ニ之ヲ承ルヲ得ス必ス公然ノ
保主ニヨリテセスンハアラス何トナレハ紐育
ノ法狂者ニ人ノ遺産ヲ承ルヲ許サ、レハナリ
即普通又日本ニ居ル某人英國ニ在ル某氏ノ妻
ニ屬親ノ故ヲ以テ遺業ヲ傳ヘンニ若シ其結婚
ノ事英ニ於テ成リ其夫ノ本貫英ニ在ル者ニ於
テハ遺産ノ申特異ノ趣意ヲ陳載スルニ非レハ
其遺業ハ即夫ニ歸スルト為ス是英國ノ法婦ノ
財産尽ク夫ノ有タルヲ以テナリ
右ニ載スル所ハ萬國ノ通規ト為ス而シテ人ノ遺

業ヲ承ルノ不能力前卷ヨリ屢論述スル如キ擅
制束縛ノ法例ニ基クモノハ他國ニ於テ之ヲ容
認セサルナリ

凡ソ此書ヲ讀ムノ人前諸編ニ論スル所ト下編
ニ掲載スル所トヲ以テ此萬國通私法ノ本旨ハ
天下ノ人民ヲレテ各其推理ヲ保有セシムルノ
通規ヲ立ルニ在ルヲ知ルヘシ而シテ此通規ハ猶
幾何学ノ規則ノ如ク自ラ明ニスルノ實理ヨリ
成ルヲ以テ其實鏡明昧スヘカラス重確移スヘ
カラス五洲各國寔ニ互ニ之ヲ識認セサルヲ得

ス若シ之ヲ識認セスニハ其國通商貿遷ノ事罷
ム抑交易ヲ獎勵スルハ是ヨリ發生スル所ノ義
務ヲ遂行セシムルニ在リ義務ヲ遂行セシムル
ハ其結約夥伴ノ内外ヲ問ハス其起約地處ノ彼
是ヲ論セス其成約所在ノ這那ニ關セス其告狀
起ルニ方ツテ善ク通凡正當ノ審判ヲ施ニ在リ
之ヲ為サント欲セハ此通私法ニ賴ラスニテ將
何ソ他ニ求ルヲ為サニ蓋シ此簡明精緻ノ通法
ハ素衆生普通ノ同致ヨリ成立スルモノト為ス
何トナレハ裁判ヨリ以來何ノ政府ト雖モ未タ

嘗テ此件事ニ就キテ普通ノ法制ヲ立シモノ無
ケレハナリ然則チ今ノ如ク通用ノ規律トナル
モノハ何ソヤ曰ク世々審司ノ審斷スル所ト各
國商賈ノ慣習トニヨリテ其規制立チ遂ニ此人
類ノ推理ヲ同視スルノ貴重事實ヲ完成スルニ
至ルモノニシテ敢テ一朝ノ為ニ非ルナリ
凡ソ國ノ自ラ立テ國タル所以ノ權ハ直ヲ通シ
托ヲ塞クニ在リ直ヲ通シ托ヲ塞クハ則チ各人ノ
推理ヲ保有セシムルノ力ヲ維持スルニアリ若
シ之ヲ維持セスニハ四方未服ノ民ヲ護ルノ權

去ル今夫日本國ノ如キ又坤輿上ノ一帝國タリ
能ク自ラ公平ノ法ヲ設ケ其境ニ來ル所ノ遠人
ヲシテ之ニ服セシメ正邪判明ノ審廳ヲ立テ特
リ審判ノ權ヲ執リ以テ獨立國タルノ體勢ヲ制
セハ方ニ始テ世界萬國ト對立スル當然ノ地位
ヲ占ルヲ得ヘク而シテ其審司能ク公平ノ法ヲ執
行セハ所謂經濟ノ學術ヨリ生スル所ノ利益ヲ
收ムルヲ得ヘシ然ルニ今ノ如ク外國領事ニ審
判ノ權ヲ許ス間ハ殆ント他國ノ鼻息ヲ仰テ其
生ヲ全クスルモノニ幾シ各國ト其等位ヲ較フ

レハ最下ノ地格ヲ占ルニ過キス加之其餘惠ヲ
仰テ私利ヲ經營スルカ為メニ境内ニ来住スル
ノ民ニスラ尚侮慢ヲ受ルヲ免レサルヘシ

第十四編

戊親屬之法

上男女婚媾之法

凡ソ世上萬國ヲ通シテ夫ハ闔家ノ主長タリ故
ニ女嫁スレハ夫ノ姓名ヲ冒シ夫ノ本貫ヲ取ル
蓋シ男女婚媾ノ禮ヲ行フノ地ハ常ニ偶然ニ出
ルヲ以テ若シ其地夫ノ本貫タラサレハ夫婦婚

親ノ事ニ関セス今假令ハ米國ノ女日本ニ在リ
英人ニ嫁セシニ其夫ノ本貫英國ニアルハ英
國即其婦ノ本貫トナリ日本ニ在ルハ日本國
即其婦ノ本貫ト為ルカ如シ何ヲ以テ之ヲ言フ
曰ク夫本貫ノ地ハ一切其婚親ヨリ起ル所ノ義
務ヲ完成スルノ處ナレハナリ

凡ソ女人ニ嫁シ得ルノ能不能カハ其女ノ本貫
ノ法之ヲ定ム而シ其配偶ノ年庚即能不
能カヲ定ム
ル國各其法ヲ殊ニスト雖モ若シ其女本貫ノ法
之カ合意ヲ許ストキハ其年齡少シト雖モ到處

認テ法ニ叶フトセサルナレ但其女他國ニ於テ
婚姻ヲ約スルニ方ツテハ則其地法ノ要スル所
ノ式合鬻ノ礼ヲ行フニ關ス

茲ニ一條ノ疑件アリ法家ノ說兩途ニ分ル疑件
トハ何ニ就テ之ヲ謂フ曰ク甲ハ曰フ凡ソ婦
有物外ニ在ルモノ其夫本貫ノ法之ヲ管理スヘ
レト乙ハ曰フ其物件所在ノ法之ヲ管理スヘレ
ト是ナリ但其可動物ニ至テハ概シ云フ其夫本
貫ノ法之ヲ管理スヘレト然則其不可動物ニ就
キテ孰ノ說ヲ執ル曰ク亦其夫本貫ノ法之ヲ管

理スト云フヲ善トス今假令ハ紐育ニ本貫ヲ有
スル某女英人某ニ醮ス而ノ其婦ノ財産共ニ紐
育ニ在ルノ例ニ遇ハシニ英法ニ於テハ己ニ屢
々説述スルカ如ク婦ノ財産尽ク夫ノ有タルヘ
キヲ以テ某女ノ財産ハ到處皆某夫ノ有ト認ム
ヘレ但英ノ法夫ヲノ盡ク婦ノ財産ヲ有セシム
ルヲ以テ其女契婚ノ前負フ所ノ一切欠項ハ夫
之ヲ償還シ合鬻ノ後ハ之ヲ給養スルノ責ニ任
スヘレトス然ルニ紐育ニ本貫ヲ有スルノ人英
ノ室ヲ受クレハ紐育ノ法婦ノ有物夫ニ屬セス

而ノ其地即夫本貫ノ地タルハ其婦有物ヲ自ラ
有スヘシトス何ヲ以テ之ヲ謂フ凡ソ嫁婦ノ本
貫夫ノ本貫ヲ資ル一ナリ其地ハ即其約束ノ完
成ヲ期シ其終身ノ棲居ヲ竣ツノ地ナルニナリ
其法ハ即其將來法上關聯ヲ管理セラル、ヲ期
スルノ法ナル三ナリ此三條ノ實理アルヲ以テ
夫ノ本貫婦ノ浮財實産ヲ管理スルヲ良トスル
ナリ尚且紐育ノ法ニ於テハ婦夫ニ後ルトキハ
夫ノ有物ヲ以テ之ヲ支給シ夫若シ子ヲ遺セハ
婦其本貫ヲ變セサル間ハ母子ノ關聯亦此法ニ

ヨリテ管理セラル是ヲ以テ紐育ノ人ニ嫁スル
ノ女ハ即其本國ノ法ヲ棄テ其權理財產共ニ皆
紐育ノ法ニ服従スヘシトスルナリ彼英人ニ醮
スルノ婦モ亦英法ニ服従スヘシト做スノ理類
推スヘシ
夫男女婚媾ヲ約スル所ノ地法ハ能ク合番ノ式
ニ關スト雖モ婦ノ有物ヲ管理スルハ其夫本貫
ノ法ニ依ラサルヘカラス故ニ今紐育ノ女佛蘭
西ニ屬駐シ其地ニ於テ英人某ニ醮センニ若シ
其女紐育或ハ佛蘭西ノ法ヲ以テ其有物ヲ管理

セラル、ヲ期スルトキハ其婚書中ニ其意思ヲ
記載セサルヘカラス然ラサレハ日後告状起ル
ニ方ツテ夫ノ本貫ノ法之ヲ管理スヘシト認ム
ルナリ

凡ソ紐育ノ法男女婚媾ノ後其財産夫婦ノ間ニ
分有ス尔後本貫ヲ去テ他ニ移住スルモ其事更
ニ其財産ノ事ニ關ルヲ無シトス若シ法此ノ如
ク密ナラサレハ其人或ハ婦ニ其財産ヲ分有ス
ルヲ許ス所ノ地ニ於テ合巹ノ禮ヲ行ヒ其後異
法ノ行ハル、所ニ住地ヲ占メ其婦ノ財産ヲ褫

奪スルヲアルヘシ是婦ヲシテハ有主ノ權ヲ妨
害セラレシメ夫ヲシテハ強劫騙詐ヲ行フノ道
ニ誘フナリ

蓋シ紐育ノ此法ハ唯紐育ノ法ニヨリテ管理セ
ラルヘキ婚媾ノ上ニノミ及用スルヲ得ヘクシ
テ他國ノ法之ヲ管理スルモノ、上ニハ用フヘ
カラス何トナレハ此法單純人的法ナルヲ以テ
若シ人自ラ好テ他ノ住址ヲ得ルカ或ハ此特許
ヲ棄ルキハ何ノ日ト雖モ能ク此法ノ恩賜ヲ辞
スルヲ得ルナリ

中父母之權

已ニ前卷ニ載スルカ如ク人ノ權ヲ受ケ事ヲ行
フノ分限ハ其本貫ノ法之ヲ管理シ實子生ルレ
ハ父ノ本貫ヲ受ク而メ父ノ子ヲ制スルノ權父
ノ子ニ負フ所ノ義務亦其法ニヨリテ限制セラレ
凡ソ各國ヲ通レ人ノ子タル者ハ自立テ事ヲ行
ヒ得ルノ年庚ニ至ルマテ必ス父ノ保護給養ヲ
受ク故ニ其年庚ニ至ルノ間ハ概シテ之ヲ尚弱
ト名ク已ニ其齡ニ至レハ之ヲ成丁ト做ス
又人ヲ成丁ト定ムルノ年庚亦已ニ上卷ニ載ス

ルカ如ク各國相異リ英ニ於テハ年庚二十一歳
ニ至リテ尚弱ノ期尽キ普魯斯ニ於テハ二十四
歳羅馬律ヲ用フルノ諸國ニ於テハ二十六歳ヲ
成丁ト為ス而メ尚弱者其本貫ノ地ニ於テ已ニ
成丁ニ及ヒタル者ハ到處亦認テ成丁ト做サル
故ニ已ニ二十一歳ニ滿ル英人ハ普國ニ到ルモ
之ヲ成丁トス是其人英法ニ於テ已ニ成丁タレ
ハナリ之ニ反シテ二十四歳ニ滿タサル普人ハ
英ニ於テモ之ヲ認テ尚弱ト為ス今其齡已ニ二
十一歳ヲ超ヘ未タ二十四歳ニ滿タサルノ英人

普魯斯ニ行キ彼處ニ於テ本貫ヲ得ニ他同年
庚ノ普人ハ尚弱ト為サル、モ其人ハ己ニ成丁
ト認メ做サルヘシ蓋シ何國ト雖モ人ノ前本貫
ニ於テ得シ所ノ權分ヲ奪フト克ハス何トナレ
ハ其權分ハ即其賚賜ノ權ナレハ各國皆之ヲ顧
思セサルヲ得サレハナリ

又父ノ尚弱ノ子ヲ制スルノ權カハ其本貫ノ法
ニヨリテ限定セラル、ヲ以テ若シ父タル者其
法ニヨリテ其父タルノ權カヲ施為スルニ勝ヘ
スト審判セラル、トキハ到處皆認テ之ヲ其任

ニ勝ヘスト做スヘシ何トナレハ審判ハ人ノ權
分ニ及應シ人ノ權分ハ其本貫ノ法ニヨリテ審
判セラルレハナリ今夫日本ニ本貫ヲ有スル尚
弱者米歐洲等ノ國ニ其財產ヲ散有スルアリ其
父癩狂爛醉等ノ故因ニヨリテ日本審廳其人ヲ
父タルノ權カ義務ヲ施為スルニ勝ヘストレ或
ハ此故因ニヨリテ其子ノ財產ニ阻間スルヲ
禁セラル、トキハ米歐ノ審廳ニ於テモ此審判
ヲ認メテ恰モ其廳ニ於テ審判セルモノト一様
ノ看ヲ做スナリ

米國諸州ノ中其法夫婦離婚ヲ許スノ處十二メ
七八離婚ヲ請フテ許サル、ノ夥人其子ヲ給養
スルノ任ヲ負ヒ男ニレテハ再ヒ室ヲ受ケ女ニ
シテハ再醮スルヲ得若シ該係ノ夥人離婚ヲ許
ス所ノ所中ニ住シ同州ニ於テ婚配セシモノハ
其離婚ノ事他國ニ到ルモ亦之ヲ認テ叶法ノ者
ト認メラルヘク且其雙夥ノ推理亦之ニ隨テ限
定セラルヘシトス故ニ今嫁婦アリ日本審廳ニ
於テ離婚ノ許ヲ受ケ其子保給ノ任ヲ蒙ルトキ
ハ此離婚ノ事到處皆之ヲ識認スヘキカ如シ

凡ソ子生レテ其本貫ヲ得ルノ所ハ名ケテ所生
本貫トイヒ其推理ヲ受ルノ分モ亦此地法ニヨ
リテ限制セラル故ニ其法之ヲ認テ實子ト做ス
トハ其子ハ到處皆之ヲ實子トシ又生後ノ事情
ニヨリテ實子ト成ルノ分ヲ有スルトキハ其事
情到來ノ事ニヨリ到處皆其子ヲ實子ト成ルト
認ムヘク若シ其事情到來ノ地法ニ於テ實子ト
成ル克ハスト定ムルトキハ此不能カ到處隨行
ク例スルニ野合ノ子ノ所生本貫普魯斯ニ在ル
トキハ日後其父母法ノ如ク合鬻スレハ其子即

實子ト成リ若シ其本實英國ニ在ルトキハ其父
母日後法ノ如ク婚配スルモ其子ハ實子ト為ス
ヲ得ス永ク認テ傳子ト為スカ如シ皆事情即婚配
到來ノ地法ニ隨フナリ

夫英人ノ野子ハ實子ト為ルノ能カラ有セス故ニ
其母醮嫁ノ後生ル、所ノ子尽ク父母ノ遺業ヲ
承ケ婚前生ル、所ノ傳子ハ其分典ニ関ルヲ得
ス普人ノ傳子ハ實子トナルノ能カラ有シ其父
母日後法ノ如ク婚配スルトキハ英國ニ到ルモ
實子ト成ルヲ得英人ノ傳子ハ其父母日後普ニ

移住スルモ尚實子ト為スヲ得ス

前款條列スル所ヲ以テ觀ルトキハ人ノ權分ヲ
限制スルノ法其廣通博達ナル推シテ知ルヘシ
世ニシテ若シ此法ナクニハ人ノ權分行處トシ
テ變セサルナク一處ニ於テ獲ル所ノ權他處ニ
於テ之ヲ失フコトアルヘシ又訟度ニ出テ、其權
理ヲ争フニ方テハ各處ノ審廳殊異ノ審斷ヲ為
スナルヘシ

下保人之職

保人トハ人子尚弱、問其父死スルカ或ハ其父

父タルノ任ニ勝ヘサルキハ法ニヨリテ其子ノ
財産ヲ保障スルノ任ヲ受ルモノヲ云フ其類ニ
アリ一ヲ凡事保人ニヲ特事保人ト云フ
凡事保人トハ其子ノ父母ニ代リ凡百ノ家事ヲ
觀一切ノ財産ヲ守ルノ權ヲ施為スル者ヲ云フ
特事保人トハ特ヲ某件事ヲ為スニ任セラレ
タル者ヲ云フ例スルニ尚弱者ノ為ニ家屋ヲ賣
リ或ハ之ニ代リテ告狀ヲ理スル等ノ如シ故ニ
此保人ハ普通權カヲ有セス而シテ其義務モ亦唯
一件事ヲ施為スルニ限ルノミ

凡ソ保人ノ權カハ猶父ノ權カノ如ク尚弱者本
貫ノ法ニヨリテ限定セララル
夫臣民ノ推理ヲ保護スルハ則國ノ榮若レ之ヲ
能セサレハ其國尊カラス強カラス特ニ其少弱
頼ルナキモノハ宜ク憐ニテ之ヲ庇祐スヘシト
為ス是各國審廳其管下ニ少弱ノ者アレハ之カ
保人ヲ命スル所以又緊密ニ其保人ノ任ヲ責メ
若シ其怠惰或ハ惡為ニヨリ少弱者損害ヲ被ル
トアレハ嚴譴直ニ其身ニ加ヘシムル所以ナリ
蓋シ人ノ權カヲ他國ニ於テ容認セサレハ百般

ノ障壁隨テ起ル今夫尚弱者或ハ其財産ヲ諸國ニ散有スルヲアルヘシ此時ニ方テ若シ他邦ニ於テ保人ノ權ヲ容認セスニハ誰カ其財産ヲ保存セン尚且或ハ之ヲ失フニ至ラニ然ルニ凡事保人ニ尚弱者ノ他邦ニ有スルノ地ヲ賣却スルヲ許スノ事尚未各國普通ノ規則トナルニ至ラズ唯普魯斯ノ法保人ニ此權ヲ許スノニ英米ノ二國ニ於テハ此權ヲ許サス凡此ノ如キ例ニ會ヘハ其審廳更ニ特事保人ヲ命シテ其事ヲ管セシム然ルニ此法ニ從フ片ハ實際ニ於テ先ツ四

項ノ障壁ヲ生ス今左ニ開載シテ之ヲ示サシ

其一無用ノ冗費ヲ増ス

其二尚弱者遠隔ノ他邦ニ居レハ其財産所在ノ地ノ情實ヲ悉ス克ハス故ニ若シ其特事保人其義務ヲ完クセサルアルニ方ツテ其所為ヲ審聽スルニ甚難シ

其三保人ニ土地ヲ賣ルノ權ヲ許スハ物的法ニシテ人的法ニ非ストイヘル謬妄ヨリ之ヲ賣ルヲ許サハルナリ然レ其事ハ物的法ニ關スルニ非スシテ人的法ニ關スルナリ何ト

ナレハ其趣旨固尚弱者ヲ利スルニアリテ土地ヲ利スルニ非サルヲ以テ物件所在ノ地法之ヲ管理スルノ理ナケレハナリ

其四英米ノ此法ハ通凡ノ原理ニ違ヒ其利用ヲ棄損ス

抑尚弱者カ財産ヲ受ルノ權ハ其本貫地法ノ定ムル所其實子傳子タルヲ定ムルモ亦其法ニアリ其尚弱ノ期限モ之ニヨリテ定マリ其權分モ亦之ニヨリテ賜ハリ各國共ニ之ヲ相識認スル所トス然ルニ之カ為ニ其財産ヲ保護シ其家事

ヲ觀ルノ保人ニ至リ之カ權ヲ他邦ニ於テ容認セストセハ甚謂レナレトイフヘシ蓋シ保人ハ其有主ニ比スレハ關係僅ニ毫釐ノ輕キアルノニ其事ヲ代理スルニ至テ何ソ本主ト別アラニ尚且保人ヲ命スルハ尚弱者本貫ノ審廳ヨリスルヲ以テ其審票ヲ傳過スル亦素ヨリ易ク大ニ事ヲ簡シシ費ヲ省クヘシ況ニヤ尚弱者ノ本貫ハ恒ニ其父ト處ヲ同クシ其浮財ヲ管理スル亦常ニ同處ノ法ヲ用フルニ於テマ故ニ普法ノ如ク外邦保人ニ實産ヲ賣却スルノ權ヲ許スヲ

最妥貼公平ト做スナリ

第十五編

法式之事

法式トハ某公事ヲ完成スルカ為ニ法律ノ指示
スル所ノ様式ナリ 批領 原語「リ」ス約束ヲ以テ
生涯或ハ多年間家屋土
地ヲ借領スルヲイフ
一時ノ就借ト異リノ式アリ賣券ノ式アリ遺書
ノ式アルカ如シ

羅馬國ト西班牙トニ於テハ五年以前マテ男女
婚媾ノ事天主教宗ノ示指スル所ノ式ヲ守ラサ
レハ之ヲ約スルヲ得ス 正教ノ行ハル、多國ニ
プロテスタント

於テハ兩夥ノ好相合フトキハ法式ニ依ルヲ要
セス

普魯斯ニ於テハ浮財ヲ賣買スルニ賣者買主ニ
之ヲ交付セサレハ賣ノ事了ルト做サス佛蘭西
及米ノ多州ニ於テハ必シモ交付ヲ要トセス兩
夥ノ約成リ證券ヲ交付スレハ之ヲ賣ルノ事了
ルト做ス是皆其國ノ法式タリ

凡法式ニ二類アリ一ヲ表號トイフ多クノ耶蘇
教國ニ於テ男女婚媾ノ約ヲ為スニ指環ヲ以テ
表號トシ屋主門鑰ヲ典ヘ以テ僦者ニ其家ヲ委

スルノ表號トスル如シ一ハ約券ヲ書スルノ式
ナリ假令ハ紐育ノ法ニ於テ遺書ヲ立テ實産ヲ
傳フルニ二人ノ證人ヲ要シ某ノ國ニ於テ田券
ニ押印ヲ要セシ如シ

方今ハ多クノ國多クノ約束ニ於テ表號ヲ要セ
ス文字ノ用一般ニ行ハル、前ハ其思意ヲ立ル
ヲ人ニ知ラシムルノ方法表號ヲ用フルノ外他
ナシ故ニ其用甚廣カリシナリ即第一ノ人_主即屋
第三ノ人_人即證ノ面前ニ於テ第二ノ人_者即僦門
鑰ヲ交付スルトキハ之ヲ其屋ヲ任スルノ證ト

セシカ如シ又其始押印ヲ要セシモ文字ヲ書ス
ル克ノサルカ為ニ之ヲ表號トシテ用ヒシナリ
近世表號ノ用漸ク廢委シ兩夥ノ約束ヲ表スル
專ラ書券ヲ以テス

夫人他國ニ有スル所ノ物件ヲ人ニ賣ラントス
ルトキハ先其國ノ要スル所ノ法式ヲ詳ニセス
ニハフランス故ニ假令ハ今紐育人日本ニ在リ其
普魯斯ニ有スル所ノ書籍ヲ人ニ賣ルノ約束ヲ
為シ日後其背成ノ事ヲ首告セララル、トキハ紐
育人其書籍ヲ已ニ買主ニ交付スルヲ得ルノ證

ヲ示スニ非レハ日本ノ審廳其人ヲ放釋スヘカ
ラサルカ如シ

遺書ノ法式ハ各國殊異ナリ某國ニ於テハ一人
ノ見證ヲ以テ足レリトシ某國ニ於テハ二人ヲ
要シ又某國ニ於テハ官吏會合シテ之ヲ識認ス
ルニ非レハ法式ニ叶フトセス蓋シ遺書ヲ立ル
ノ式古來萬國通私法中ニ論スル所ノ規律亦殊
異ナリ其初ニ通用セル規則ハ凡遺書ヲ立ル其
之ヲ立ル人ノ本貫地法ノ要スル所ノ式ニ從フ
トキハ到處皆之ヲ認テ妥常トスヘシトナリ然

ルニ近世ノ如ク通商盛大ニシテ各國ノ人民互
相往來陸續絶エサルノ時ニ方ツテハ此則稍煩
苛ニ過キタリ何トナレハ今一例ヲ引テ之ヲ明
サニニ日本人某甲一時紐育ニ驕緊シ病ニ罹リ
死ニ垂ニトシテ其遺書ヲ作ラントスルニ方テ
其能ク日本國法ニ於テ遺書ヲ立ルノ式如何ヲ
領知スルノ人ヲ睇出セントスルモ得ヘカラス
而シテ其遺書日本ノ式ニ叶ハサル片ハ彼古規ニ
從ヘハ到處皆之ヲ認テ法ニ叶フト做スヘカラ
ス然ルカ如キハ甚苛煩ニ堪ユヘカラストス依

テ軌近此弊ヲ除カニカ為ニ尚寛裕ニシテ通用
レ易キノ規則ヲ採用セリ其規則トハ即チ凡人
ノ遺昏ヲ立ル其之ヲ立ル所ノ地法ニ於テ式ニ
叶フト為ストキハ縱令其人本貫ノ地法殊異ノ
法式ヲ要スルモ其遺昏ハ到處皆認テ法ニ叶フ
トスヘシトナリ然ルニ此新則ヲ用フルトキハ
尚左ノ三件ノ格ニ入ル可ラサルモノアリ

天此遺書ハ之ヲ完成スル所ノ地法ニ背クヲ

導ス

地遺昏ヲ立ルノ人其權分ニ就キテハ本貫ノ

法ヲ犯スヲ得ヘカラス故ニ假令ハ年庚ニ
十歳ニ滿タサル普人ハ英ニ在ルモ遺書ヲ
立ツルヲ得ヘカラス何トナレハ普ニ於テ
ハ其人未タ成丁タラサルヲ以テナリ又英
ニ本貫ヲ有スル人ノ妻タル者ハ當時紐育
ニ居ルニ會スルモ其浮財ヲ人ニ傳遺スル
ノ遺昏ヲ立ルヲ得ヘカラス其故ハ假令紐
育ノ法之ヲ作スヲ許スト雖モ其本貫ノ法
之ヲ禁スレハナリ
人又此規則ニ於テハ物件所在之法ニ背クト

キハ其物件ヲ交付スルヲ許ス可ラス何種ノ約束ト雖モ其完成ノ地法ニ於テ禁止セラル、モノ之ヲ妥當法ニ叶フト為ス可ラサレハナリ

蓋古三條ノ範圍ニ入ルヘカラサルモノアリト雖モ此新則ヲ用フルニ於テハ一者適セサレハ尚他者ヲ用フヘシトス故ニ凡ソ人他邦ニ在リ其本貫ノ法式ニ從テ遺書ヲ立テニハ素ヨリ到處之ヲ認テ法ニ叶フト為スヘシト雖モ若シ其遺書ヲ立ルノ人其本貫地法ノ示指スル所ノ

ニ七七七

法式ニ遵ヒ作スノ機會ヲ得サルトキハ尚其之ヲ作ル所ノ地法ニ於テ許ス所ノ法式ニ遵ヒ作スヲ得ヘケレハ世又之ヲ認テ法ニ叶フト為スヘシ彼佛蘭西ノ民法ニモ亦其第四十七條百七十條及九百九十條ニ於テ遺書ヲ立ル所ノ法式ニ遵ヒ作ルトキハ之ヲ法ニ叶フト認ムルヲ許スナリ

第十六編

結尾

此小冊子ノ尾ヲ結フニ方ツテ茲ニ左ノ數語ヲ

大藏

贅ス亦寃言ニ非ルヘシ

蓋シ萬國通私法ノ規則ハ諸文明國ノ容認スル
所ニシテ瞭然タル正義公道ノ本原ノ三故ニ此
通規ハ能ク人ノ一國ニ於テ獲ル所ノ推理ヲ他
國ニ於テ勒行セシメ人ノ入ル所ノ約束正クシ
テ其事期成地法ノ禁スル所ニ非レハ能ク之ヲ
容認スルナリ抑正義公道ヲ追求スルニ於テハ
衆生均一富貧内外ノ殊アルナレ今夫海路偶難
ニ罹リ船舶漂フテ某ノ海岸ニ投セラレニニ其
地ノ政府此不幸ノ人ヲ保護スル猶其國人ノ最

ニ七十八

資ニ富ム者ノ如クセスニハ何ヲ以テ之ヲ公道
ト謂ハニ而シ其船ノ載スル所高買アリ財主ア
リ老アリ壮アリ奴ニ婢ニ其境ニ入ル者乃チ其
法ニ甘服セスニハアルヘカラス何ヲ以テ之ニ
服スル其保護ヲ要スルニ非スヤ若シ其保護ヲ
期セスニハ孰カ其法ニ服スルヲ為サレ今夫日
本ノ如キ隆崇至重ノ特權トシテ各國審廳ノ競
フテ討求スル所ノ權ヲ容易ク外國領事等ノ手
ニ委ヌル何ヲ以テカ能ク此正義公道ヲ施為ス
ルヲ得ニ

抑審判ノ權ヲ外國領事等ニ任スルトキハ外國ノ民其保護ヲ天皇陛下ニ仰カスレテ之ヲ一介ノ領事ニ仰カン若シ他邦ノ民能ク之ニ謹服スルノ國法ヲ立テ他國法能ク之ヲ管理スルノ義務ヲ勒行スルノ審廳ヲ設ケスニハ何レノ時カ各民同視各法同通ノ事ヲ舉ルヲ得ニ今夫人ノ家ニ到ル者アレハ必ス其家則ニ甘服スルハ何ソヤ其家主ノ保護ヲ期スルナリ然ルニ其港門ヲ開キテ萬國ノ民ヲ招集シ而メ來ル者皆其國法ニ服セス其保護ヲ仰カスト謂テ可ナラン

乎

夫國ノ形象ヲ表シテ巍々ト云フ豈公道正義ヲ抑ク衆生ニ施及スルノ謂ニ非スヤ國能ク公道正義ヲ施行スレハ凡世ノ民率テ其政ヲ信ス其政ヲ信スレハ則始メテ其高利ヲ共享スルヲ渴望ス何ヲ以テ之ヲ云フ其權理ノ勒行スヘキヲ知レハナリ

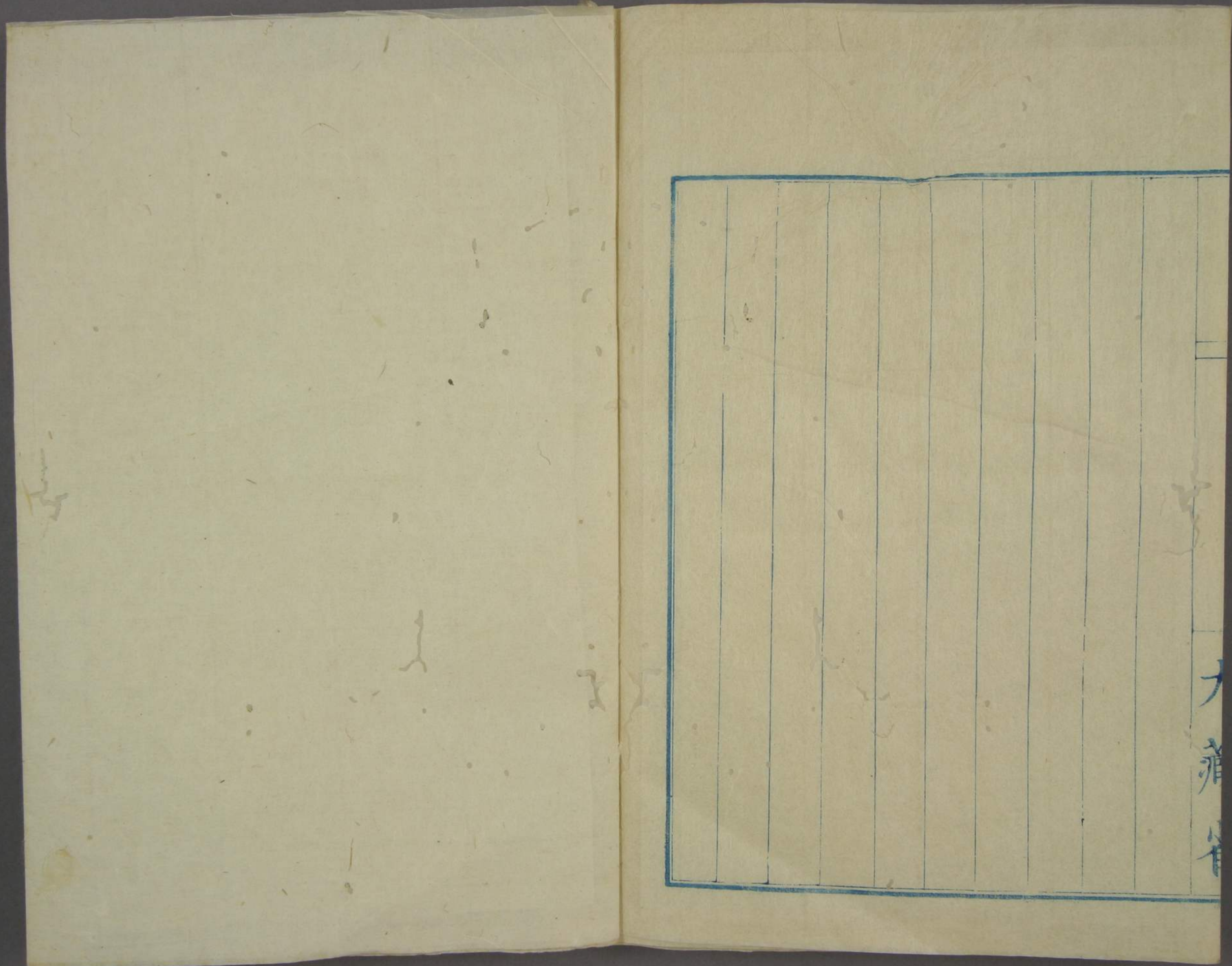
經濟ノ學タル人動モスレハ謂フ經濟ヲ學フニ理財ヲ講スト然ルニ國若シ特立ノ審廳ヲ立テ此正義公道ヲ勒行セスニハ萬卷ノ經濟書モ亦

無用ノ玩具ニ過キス抑蘆直ノ法ハ常ニ商法ニ
前テ明ニスヘレ彼所謂萬國公法ノ本旨モ亦蘆
直ヲ以テ一凡義務ノ實トナシ之ニ依テ交易ヲ
獎勵スルニ在ルノミ試ニ思ヘ若シ米ノ審廳ニ
於テ其日本ニ在テ結フ所ノ約束ヲ勒行セシム
ルニ疑アラハ日本ノ人誰カ米人ト商事ニ典リ
誰カ米人ヲ信任スル者アラシ又米歐諸洲ノ人
モ亦日本ニ於テ同一ノ保護ヲ得ルヲ保セスニ
ハ誰カ日本入ト通商スルヲ渴望センヤ
或ハ曰ニ日本開化ノ度未タ舊習ノ陋法ヲ変レ

普通同視ノ法ヲ採用スルノ域ニ至ラス其賢能
審司ヲ出ス百年ノ遠キヲ期スヘレト蓋シ我紐
育州ニ在テ大成ノ法書ヲ刊行セシハ獨立ノ後
總ニ二十五年ノ間ニアリ是ヨリ先未タ一審司
ノ名アル者國ニ著レス抗英ノ役罷ニ交易恢復
スルニ隨テ勢良全ノ審廳ヲ立テ商事ヲ保存セ
サルヲ得ス是ヨリ名輩並出スル恰モ神乎ニ出
ルカ如シ其佳称百歳衰ヘス是ヲ以テ之ヲ觀レ
ハ日本國ニ於テモ賢能ノ士ヲ出ス將ニ近キニ
在ルヘレ但其國人固陋ノ偏執ヲ去リ心ヲ合セ

カヲ戮セ以テ共ニ其國カヲ保存シ其國尊ヲ墜
サ、ラン、一ヲ庶幾セハ其成効ノ速ナル將ニ測
ルヘカラサルモノアラントス

萬國通私法卷下終



大清省

